

【翻刻】

足立栄之助の『陣中日誌』

——軍曹の日露戦役従軍記——

上 田 正 行

注記

- 一、本日記は島根県仁多郡横田町字大馬木の足立隆氏所蔵になる『陣中日誌』の翻刻である。
- 一、本日記の表には「陣中日誌 第三號 明治三十七年自十二月二十七日至三十八年二月十一日 歩兵軍曹足立栄之助」とあるが、実際は十二月七日から始まり、翌年の二月十一日で終わっている。
- 「第三號」と書かれているので第一号、二号、あるいは第四号と書き継がれていると思われるが、現在のところ、それらは見つかっていない。
- 一、足立栄之助の簡単な略歴を示すと、明治13年11月14日生まれ、同33年浜田21連帯入隊、同36年陸軍伍長で退官、同37年2月の日露開戦と同時に従軍、同38年に帰還し同41年2月に没している。
- 一、原文を尊重し漢字も旧漢字の部分はそのままとした。ミスがある時は（ ）で示した。
- 一、原文は右横書きであるが左横書きとした。
- 一、適宜に句読点を付した。
- 一、意味の通じない所で字句を補った部分があるが、テニヲハの助詞の部分に止めた。
- 一、松本清張の『砂の器』でも話題になったが、出雲弁はイ段母音がエ段母音・ウ段母音に近く、イとエ、シとスなどが混同しており、東北弁と共通した現象が見られる。本日記の表記にもそれが現れており、意味が通ずるように（ ）で示した。
- 一、不明の部分は□で示した。
- 一、中国の地名については正確を期すため参謀本部編纂『明治卅七八年日露戦史』第七巻、同附図（大2・12 東京偕行社）を参照した。

陣中日誌 第三號

明治三十七年自十二月二十七日至三十八年二月十一日

(注記したように実際は十二月七日より)

歩兵軍曹 足立栄之助

勅語 (はさみ込み)

我満州軍ハ客冬沙河會戰(戰)以來鋭ヲ蓄ヘ敢テ叩クニ動カズ以テ戰(戰)機ノ熟スルヲ待チ一度ビ意ヲ決シテ立ツヤ敏戰(戰)活動敵軍ヲ壓迫シテ既ニ克ク包圍ノ形ヲ占ム 朕ハ捷報到ル毎ニ我戰(戰)勢ノ益々佳境ニ進ムヲ喜ビヌ汝將卒ノ餘言猶ホ酷烈ノ時ニ於テ数昼夜ニ亘レル艱苦ヲ察シ慘念甚ダ切ナク夫レ各々自愛シテ耐久ノ勇ヲ狼ヒ光輝アル功績ヲ奏シ以テ 朕及 朕ガ億兆ノ信賴ニ應ヘヨ

明治三十八年三月八日

明治三十七年十二月七日續キ

本日仁平山ヘ行軍セシニ、烈風身ヲ削リ雪頻々ト降り正午飯宿シ午後ハ演習ナカリキ。昼食ヲ終リテ稍々後チ、田中口ヲ開キ土居ニ云テ曰ク。本日ハ非常ノ寒ナリ。一杓(酌)傾ケテハ宜シカラジヤ。土居答ヘテ曰ク。君酒ヲバヤルベシ、余牛肉ヲバヤラン。之ハ大ニ宜シト云フ内、中川宴会ヲ催シタラバ如何ト云フ。説ハ遂ニ分隊一同ノ耳ニ徹(徹)シ遂ニ評議ハ決シテ、一人二十五匁ノ会費ト議決セリ。余ニ土居云フテ曰ク。分隊長殿、本日ハカツカ(閣下)様ノ口第ト述べ、ドウカーショ(緒)ニ中(仲)間入りヲ願ヘ(ヒ)升ト云フ。依テ余ハ大ニ讚成ス(シ)金五十匁ヲ出シタリ。二十一聯隊ノ酒保ニテ一升七十錢ノ酒六升ヲ買来リテ、牛肉ノ肴ニテ愈々午后五時ヨリノ開会トナリ、或ハ中隊當番ナル大野、奥川亦ハ炊事當番ナル内藤、大隊當番ナル飯国モ飯ツテ、イト盛大ナル会ハ開カレ一時ハ会場ノ盛大ナル事、天地モ繙(崩)レン有様ナリ。六升ノ酒ハ寸間ニ失セテ、亦壺円ガヲ買ヒ来リ尚ホ壺円ガハ余亦ハマリテ買ヒ来リ、愉快ノ宴会ヲ催シツ、在ル内、宿當地内ハ何處トナク物ノウチシゲニナリ渡リ、ハテナト聞ケバ、或ハ出發ニヤ非ズヤ。中隊本部ノ如キハ悉ク出發ノ準備ヲナト云ヲ聞キ、今迄盛大ナル会場ハサメテ淋シクナリ渡ル。暈(酔)シ酒モ失セテ何ノ氣モナクナリ、各々當番ハ受持ノ處ヘト販リシキ(時)ハ午后十時ナリキ。余ハ部隊ノ者ヘ出發ニ當リ、差当リ為スベキ萬事ヲ注意シ睡眠シ夜ノ明ル迄ハ一息ナリキ。

十二月八日

午前八時半起床。天氣晴天ニテ前夜ノ出發ヤノ噂モナクテ演習ニハ整列トナレリ。午前ハ柔軟体操ト跣歩ニテ終リ、稍々在ルト会報ニ集デ在タ。其ノ会報ハ次ノ如シ。

日ク師團命令。爾後驚（警）報ニ際シテハ各衣ノ上ニ夏衣袴ヲ着シ、其ノ上ニ毛布ノ胴着ヲ着用シ防寒外套ハ背囊ニ附着スベシ。若シ夜間驚（警）報ニ際（際）シ出発ヲ為ストキハ夏衣袴ノ上ニ防寒外套ヲ着用ス（シ）、毛皮胴着ヲ背囊ニ附着スベシ。中隊ノ警急集合所ハ露營ノ土工作ヲ為ス在ル處ヲ右翼トシ、道路上ノ南面ノ横隊ニ集合スベシ。此ノ方面ノ情報、秋山支隊ノ前面ニハ敵兵増加セシ者ノ如シ。

第三軍情報。二〇三高地占領後、赤坂山寺兒溝ノ北方高地、三里橋西北方高地ヲ悉ク占領ス。敵ハ椅子山ヨリ北大陽鴨ニ亘ル本防禦線内ニ迫縮セリ。二十八珊瑚榴弾砲ヲ以テ乃軍艦射撃ノ結果、テレシウエツニ拾四、パルラダニ八、レトウヘザンニ八、パーヤンニ四、トペターニ四発命中シ、パルラダハ昨日（五日）砲撃ノ結果右ニ傾キ甲板迄浸水ス。レトウエザンハ昨日砲撃ノ結果右ニ傾キタリ。パーヤンは挫傷（礁）セリ。本日モ軍艦射撃ヲ施行ス（七日ノ情報ナリキ）。正午ニ於テ左ノ情報ヲ聞ク。土民ニシテ敵ノ間諜（諜）ニ頼レ（リ）我ガ軍ノ倉庫ニ火ヲ放チ（ツ）者在リ。現ニ遼陽ニ於テ倉庫ニ放火セントスル現行犯ヲ捕ヘタリ。依テ各隊ハ深く注意スベシ。殊ニ衛兵司令ニ任ズルモノハ一層ノ注意ヲ要ス。

第三軍ノ情報（七日）。砲撃ノ結果、プロター、レトウエザンノ二隻ノ艦底（艇）ハ全ク海底ニ着キタルモノ、如ク、ホペレタブルハ損害ヲ蒙ラザリキ。之ハドク（ドック）ニ在リシ故ナリ。其他ノ敵艦ハ悉ク損害ヲ受ケザルナシ。而シテ敵艦ハ逃出ノ模様モナク、亦、之ヲ防グノ予猶（余裕）モナキ有様ニテ、彼レ敵艦ハアマンジテ我軍ノ砲撃ヲ受ケツハ在ル様子ナリト云フ。

午後ハ土工作业ニテ終リキ。

十二月九日

昨夜来ヨリ大風寒クシテ為メニ降雪セリ。然レトモ（ドモ）朝ヨリハ南風トナリ意外ニ暖カナリキ。午前は蹠歩及ビ柔軟体操ニテ午後ハ蹠歩ナリキ。午後四時頃ヨリハ南風ノ為メ積雪ハ稍々解タルモ、降雪ハ矢張在リタリキ。

夕暮ニ至リ相沢軍曹来リテ茲ニ於テ一酌（酌）傾ケタリ。此夜十一時臥戸（所）ニ付クトハナリヌ。此日ハ前方ニ於テモ砲声モセズ穩ナル日デモ在タ。

十二月十日

朝起キテ見ルト雪ハ約壺寸余積テ居タ。風ハ北風デ実に冷イ。鼻モ耳モツ（チ）ギレン斗デ在ツタガ矢張演習ハ在タノデ在ル。先ヅ僅ニ蹠歩位デ約三十分間デ終タノデ在ルガ、余ハ丁度日直デ演習ニハ出デナイ。午前十一時四十五分、左ノ会報ガ在タ。

第三軍情報。敵艦プロター、レトウエザン、テレシウエツ、パーヤン、パルラダ外壺隻、都合六隻ハ全ク戦闘力及抗（航）海力ヲ支失シタルモノト判定セラル。明日（八日）ハセ

バシトプール其他砲艦、駆逐艦ヲ砲撃スル筈。通牒、過日、戦烈（列）隊ニ於テ馬六頭ヲ盗取セラレタル会報在リタリ。之レハ全ク馬賊ノワザニシテ近来非常ナル露探ハイクワイ（徘徊）セリ。故ニ各隊ハ深く注意スルヲ。

本日特別加給品トシテ一人ニ付約二合ヅツノ精（清）酒ヲ支給スト伝達セラレ、午后五時分配セラレテ、夕食、酒ヲ一杓傾ケタガ不快ノ為メ向カナカツタ故、少シ呑ンデヤメタガ、七時頃内藤ガ来リシ故同氏ガ送テ置タ約七合ノ酒ト余ノトラ合シ（セ）テ八合余ノ酒ヲ傾ケ々々シテ居ルト、飯国ガ来リテ、二人ノ相手ヲ得タカラ大層氣ノ進ミ亦五合ヲ買ヒ来リテ傾ケ閉會ニシタハ午后十二時五十分デ在タ。全く臥戸（所）ニ付キシ時ハ午前七時十分奈里幾（なりき）。

十二月十一日

午前九時ノ起床で外へ出て見タラ晴天デ在タガ、風ノ寒イヲハ実尔仮令様ガナイ。数分間、室外尔タ、ジ（ズ）メバ直尔口ヒゲナドニハ氷ガ下ル程デ、手ニ持チシ小刀ハ手ニシミツクノデ在タ。実ニ寒い所ト益々恐シクナツタ。余ハ本日薪茂採デ日曜日ニモ不拘、此ノ任ニ当タ。正午前約三十分ノ時、中隊デ会報ガ在タ。

第三軍情報。十二月九日ノ射撃ノ結果、バレスウエレニ二十四発、バーヤンニ十五発、パルラダニ十四発、ポロターニ数発命中ス。海軍将校ノ言ニ依レバ数日来ノ射撃ニ因テ、敵ノ戦闘艦七隻及巡洋艦六隻ハ全ク戦闘力ヲナカラシメタリ。セバシトボウルハ九日午前八時頃、港外ニ出デバンジ（万頭）山ノ麓ニ碇泊セリ。午后モ矢張薪茂採ノ任ニ当リシガ、実ニ手先モ足先モ飛バン用（様）デ在タ。支那ノ語ル所ニ依ると極寒ノ丘ニ上リタル朝尔於テハ、金物ヲイロフトモ手ノ肉ハ焼ケテ金物ニ附肉スル由ナリ。実ニ恐ロシイ寒氣ノ土地ニ向フタナアー。

十二月十二日

本日モ晴天デ午（前）九時半ノ整列デ演習ヲシタガ、整列スルト直グニ口ヒゲ等ハ息ノ為メ水氣ヲ有スル故ニ真白ニナリ、氷ハ一對ニ出来、ホ、肉も血切レ飛バン斗デ在タ。午后モ一時ノ整列デ演習ヲ施行ス。此夜ハワガリ節ガ重デ聞キ居タガ、実ニ西林ト云フ者ハ上手面白シキヲハ限りガナカツタ。午后十一時終リ舎ニ皈ツタ。

十二月十三日

天気晴天デ在タガ、風身ヲ破ルガ如ク、為メニ本日午前九時半頃ニ於ケル温度ハ華氏ニテ零下廿度デ在タ。故ニ口ヒゲハ見ル間ニ白ク氷ヲ結ビタノデアル。本日モ演習ヲ施行ス。舎ニ皈ルト会報ニ集レデ在タガ其ノ会報左記ノ如シ。

第三軍情報。二十八珊知榴弾砲ヲ以テ射撃ノ結果、戦闘艦四、巡洋艦二、砲艦一、水雷

母艦一、計八隻ハ全ク撃沈セシメ最早之ト射撃ヲスルノ必要ナシ。明十日ヨリハ港内ニ在ル小艦ヲ射撃スル筈。但シ此ノ言ハ二〇三高地ノ観測手タル海軍参謀将校ナリ□。亦十日ヨリノ港内小艦射撃ハ我ガ海軍砲ヲ以テ射撃セラル、筈ナリト。午后ノ演習ハ意外ニ暖カクシテ心地能ク演習ヲ為ス。壺時間ハ寸（瞬）間ニ失セタ様ナ心地ガシタ。午後五時頃藤沢君ガ来タカラ之ト酒ヲ一杓傾ケ能キ気ゲンニテ、午後十時臥戸（所）ニ付夢ヲ結ブトヲシタガ、拂曉ニ於テ腹ヲ痛メ遂ニ眠リヲ覺シタガ、非常ニ□シヲ見レバ全ク夜ハ明ケテ本日ハ午前七時二十分デ在タ。

十二月十四日

本朝ハ非常ニ腹ハ痛クシテ当低（到底）本日ノ行軍ニハ出場能ズト思へ（ヒ）、先ヅ起キテ面洗ヲ終リ少シノ食ヲナス（シ）テ腹ヲ暖メ居ルト、大分能クナツタカラ、午前九時演習ノ整列行軍ニ行キ（ツ）タ。本日、案外朝出発ノ時ヨリ暖カデ在タ。山嚮（窩）銷ヨリ十里河東面ヲ経テ抓樹子ニ販タハ午前十一時二十五分デ、昼食ヲ終リ午後壺時半ノ整列デ演習ガ在ルガ柔軟体操デ在タ。約壺時間デ演習解散トシタノデ在ル。本日山窩銷ニ行軍中、生も此トキー沙河附近ノ会戦ノ時ニ當ツテ、奉天街道ヲ前進中、烟所臺約東南方ニ千米突前進セシトキ、敵砲弾ニ遮キラレタルトキヲ思へ（ヒ）出サレタノデ在ル。其ノ時トハ山窩鋪モ大ニ部落ノ姿ハ変テ居タノデア。午後壺時半、整列シテ演習ヲ施行セリ。前方ニ於テハ砲声ス。

十二月十五日

天気晴天ナルニモ不拘、寒風ハ夜モ烈シク口ヒゲモ氷リテ、色ハ白クナリ耳モ鼻モ手モ足モ血（チ）切レン斗リデ在タ。午前演習、午後モ演習ガ在タガ余ハ病氣ノ為メ出場セズ。此日特別加給品として精（清）酒一人ニ付約二合を給せらレタ。此夜内藤ガ酒ヲ持ち来リ酒宴ナセリ。此日一時砲声ハ夜も猛烈で在タカラ稍々心配度ハ多カツタノデ在ル。

十二月十六日は天気晴天で在タガ変里（かはり）もなく寒む風で在ツタ。余は薪茂採監視で在ツタガ実ニ寒クテ閉口した。午前十一時、本会報第三軍ノ情報ガ在タガ、セバシトボールハ全撃沈セシ由、旅順新市街其他非常ニ良好ノ情報デ在タ。此日、前方ノ砲声ハ稍々壺時頃勇熱（烈）で在た。亦今日モ心配シタ。

午後七時、二十一聯隊第九中ニ在リシ岸根又一なる人、四中ニ托（托）ス砂糖を送テ呉レタ。夕陽西山ニ没せんトスル頃ハ一頻リ砲声ハ優勢で在タガ、日ハ全西ニ没シタル頃ヨリ砲声ハ止ミ、先づ安心して抓樹子ニ接テ滞在スルトガ出来タ。

十二月十六日

天気晴天。抓樹子ニ在テ滞在。午前午後共演習ヲ施行ス。寒気ハ口ヒゲモ白クナリ硯水モ氷うる程ナリキ。

十二月十七日

天気晴天。前日ノ地ニ在テ滞在。午前午後共演習ハ施行セリ。寒気前日ニヲトラズ。

十二月十八日

本日モ矢張抓樹子ニ出テ滞在。午前モ午後モ共ニ演習ハ在リタリキ。此日ハ午前九時頃より前方ノ砲声ハ非常ノ猛烈ニシテ止ム時ナシ。時ニ銃声モセリ。午後壺時半頃トナリ砲声ハ一層激烈トナリ、此砲声ハ実ニ天地ヲ震盪サセ我等ノ宿舎ノ障子ニモヒバキケリ。此如キヲ翌十九日拂曉迄ニ亘リケリ。為めニ或ルハ出発ハ不意ノ命令非ラザルカト睡眠ニ付クト雖モ、安閑トシテ眠リ夢ヲ結ブ不能。然レモ幸ニシテ不意ノ出発モナカリケリ。

十二月十九日

天気晴天ニシテ風ハ南風ニシテ本日ノ温度ハ近来ニなき暖カナリキ。午前午後モ演習ハ施行。全ク夜ノ明ケテヨリ前方ノ砲声ハ止ミ、僅ニ本日中ニ一二発ノ砲声ハ夕暮ニ聞キシノミニテ、亦銃声モナク穏ナル日ニシテ稍々安堵シテ夢ノ臥戸（所）ニ付クヲ得タハ午後十時ナリキ。此頃南風フヨ、フヨトシテ以登（イト）物凄ゴキ夜ニアリケリ。

十二月二十日

天気晴天、温度華氏ニテ零下十八度位ニシテ、午前九時三十分演習整列セシニ、口ヒゲハ氷リテ白クナリ鼻耳モ手ノ先モ共ニ血切レ飛バン有様デ在タ。午後壺時演習ニ整列セシトキハ稍々温度ハ加リテ暖サヲ覚ユ。此日前方ノ砲声ハ午後四時、一二ヲ聞クノミニシテ稍々平穩ノ日デ在タガ、夕陽全ク没シ晩サンモ終リ寒ム嵐ハ身ニ徹シ寝モヤラデ、将暮ヲバサシテ夜ノフケルヲ待チ居タル内、漸次時計ハ進ミテ夜ハフケ渡リ、イト淋シキ无世ノ十二月二十日ノ夜半ト思シキ頃ニハ至リケリ。時ニ大声一発地ヲ震ルハセ我らガ宿ルチンヤ（陣屋か）ノ家屋ナル窓ノ障子ニ響キヌ。コハ如何ント耳ヲシ（ス）マシテ聞ク内、砲兵ノ一声（齊）射撃ノ音ヲバ空ニ轟キテ我ガ耳ニ入リシナリ。漸（暫）ク射撃ハ止マズ。今、何時ナルヤト時計ヲ見ルト、今ヤ夜ハフケ行キテ満州野原ニ宿リシ禽獸モ今ヤ夢ヲ結ントセル真中ナリ。嗚呼早ヤ今宵ハ十二時なり。最早ヤ夢ノ臥戸（所）ニ付クベキトニユ（尿？）ヲイタシニ出テ見レバ真夜中ノフケテ淋シキ銀世界ヲバ輝シテ、清キ□十一月十五ノ月影実ニ視ルモ及バヌ此ノ廣キ満野をば月ニ輝サレテ、夜ハ清ケレド物凄ゴキ砲声ハ身ニ浸ミシナリ。心地ヨク銀世界ノ月夜ヲモ思ヘバ砲声ニ少シモヲトラヌ凄キ夜ナリケン。

十二月二十一日

昨二十日行軍ノ命ハ在リテ違ヒモセデ午前九時ノ整列ハ終リテ、暫時タ、ジ（ズ）ミテ在リシニ朝嵐ハ我ガ身ヲ煽リ、ロヒゲハ数分間ニ白クナリト寒キ日ニハ在タリ。稍々在リテ烟台方向ヘト行軍ヲ始メタリ。此ノ途中ノ寒ニハ肌を破ラレテ顔亦手背を檢視スレバ、ロヒゲハ息ノ為メニ水氣を受ケ、徒ズラニ寒風之ヲ氷リニ変化セシメ、凍ミテ長キ氷リハ下リ、亦手背、ホ、ハサナガラ赤布ニマトワレシ如キ（ニ）ナリタリケリ。其レト（デ）モイトハズ遂ニ午前十時四十五分、烟台ヘト付キニケリ。此所ハ滿州軍總司令部在リ。亦、官立病院、兵站部外ノ停車場ニト近カレバ、日清、人馬ハ糧食ヲ積載シテ往復セシモ数知レズ、患者ノ後送セラレシモ在リ。亦、支那人ガ饅頭ヤ其他雜品ヲ商ノフモ在リテ、以前我々ガ戦闘中ニ来リシトキトハ其ノ繁華サハ実ニ此類ナキナリ。タゞ憐レト認^{みとめ}シメシ其ノ者ハ後送中ノ患者ニテ、一二ノ者ハ病氣ノ重キヲ以テ、為メ人事不情（省）トナリテ担送セラル、モ不知シテ担架上ニ在ル況色（？）ヲバ慥ニ認メラレタリ。嗚呼彼ノ人ハ為国家（国家ノ為）ニ一命ヲ抛テ出征セラレ、此滿州ノ野ニ於ケル半途ニテ任ヲバ盡サレテ其ノ功ハ決シテ浅カル間敷ニ、斯カル病氣ニヨカサレテ遂ニ人ノ□ニ依リ後送セラル、身分トナリシトハ、本□シヤウ在ルナラバ定メテ遺憾ト思フナラント思ヘ（ヒ）大ニ同情ヲ表シタ。実ニ此人ハ本国ニ販ハヨブツチカナキ（ヲボツカナキ）ト思レ、其ノ患者ノ事ヲバ案事シテ独リ何ヤラ感情ニヨカサレテサ、ヤク中ニ、集レノ一声ハ耳ニ入りハツト驚キテ見ルト我ガ衛生隊ニ集レデ在タ。間モナク一声ノ下ニ集リテ販途ニ趣ク。時ハ午前十一時ナリキ。□レテ間モナクノ部落ニ付キタルハ周支屯ナリ。之ヲモ右ニ見テ過キテ同村ノ東北高地ノ麓ニト販リテ、露助ノ車輛ヲ焼キ失セシ鉄具ヲ必用アリテ拾ヒ宿舍ニ販リシハ午后壹時ナリキ。解散ノ前ニ於テ本日午後ハ演習ナシト達セラレテ、皆兵卒ノ喜びハ万（滿）面ニ顯レテ居タ。其レヨリ中食ヲ終リ稍々暫ク休ミ居ルト中隊ヘ会報ニ集レデ在タ。

其ノ□夜ニ第三軍ノ情報ガ在タガ、十九日松樹山並ニ旧市街及ビ饅頭粉ヲ製スル處ヘ二十八瓏知榴彈ヲ数百発射撃シテ火災ヲ起サシメタ。又、十八日皇帝山之戦闘ハ散兵壕ヲ堀リツ、在ルトキニ、五十名余ノ敵兵第一線ヲ作り逆襲シ来リ、依テ我ガ軍ハ一応守備線ニ退却シ暫ク戦ヒシ後、全ク撃退セシメタリ。此時我軍ノ損害ハ五十名、敵ノ捕虜ノ言ニ依レバ敵ノ死傷モ之ニ越る由。亦捕虜ノ内情ニ本日逆襲シ来リシ目的ハ、約五百人ヲ以テ逆襲シ皇帝山ヲ取り返シ（ス）ベキシ（ス）テツセル將軍ノ命令ニテ来リト告ゲタリト云フ。此日ハ正午過モ僅ニ二三度砲声ノセシノミナリキ。

十二月二十二日

天氣晴天ナルモ寒氣ハ激烈ニシテ室外ノ温度タルヤ実ニ驚クベシ。華氏ニテ零度以下二十度ニ寒暖計ハ示シ居レリ。為メニ午前中ノ演習ニ整列セシニ口髪（髭）ハ冴リテ白クナリシハ数分時間中ノ中ニ當リタリキ。余ハ本日病氣ニテ宿舍ニ休ミ居レリ。然ル處午後壹

時二十分トモ思シキ頃、中隊当番来リテ曰ク、内藤口も口ヲ帶劍ニテ軍隊手牒ヲバ携帯ス。直ニ来ラシメラレトノ命令ナリト云フ。

依テ直ニ炊事當番ナルヲ以テ呼ビニ行カシメ、中隊へ至ラセシニ上等兵ヲ申付ラル。依テ本日水炊（炊飯）当番ハ交代シ分隊へ販リタリ。此夜祝意トシテ一杓二人ニテ傾ケタリキ。本日前方ニ於ケル砲声ハ実ニ猛烈ニシテ心ハ安カラザルモ、出発スル様ナルヲハナカリキ。夜ハ月ニ輝サレ赫々トシテ居タリ。只、此ノ晴朗ナル月夜ヲモ銃砲声ノ為メニ曇ラン斗リナリ。

十二月二十三日

冬ノ日ハ四方淋シキ野原ナリシモ天気ハ極メテ晴朗ナリキ。然レモ悲シムベキ此ノ満州ノ野ハ、殊ニ寒氣ハ酷ニシテ温度ハ前日ニ勝ル程ニテ、演習ニ整列セシ中ハ数分時間ノ内ニ口ヒゲニハ少々長キ氷リハ下リ、鼻モ耳モ手モ足ノ先モ切レテ飛バン有様ナリキ。実ニ驚クノ外ナシ。此日ハ実ニ実ニ砲声ハ朝ハマダ夜ノ明ケヤラヌ中ヨリ天地ヲ響シ、心安シ（ス）ク滞在モ出来ザルナリキ。此日特別加給品トシテ各自ニ付、精（清）酒約壺合五勺余ハ分配セラレタリ。茲ニ於テ内藤ガ昇進セシ祝ハ分隊壺同ニ表シ度旨ヲ申述ベ、余ハ金一円ヲ以テ祝意ヲ表シ為メ土産トセリ。為ニ之ヲ以テ酒ヲ買ヒ盛大ナル祝トナシタリキ。閉會セシハ午後十時頃ニシテ、其後亦余ハ五十錢ヲ以テ酒ヲ買ヒ来ラシメ、二次會ハ余ノ部屋ニテ、余ヲ始メ砲兵三島上等兵、内藤上等兵ノ三名ニテ為シタリキ。此閉會ハ午後十一時半頃ナリキ。斯ク愉快ニ酒宴ハ開キシタルモ心ニ掛ルハ前方ニ於ケル砲声ナリ。夕陽全ク西山ニ没スルト、稍々在リテ砲声ハ止ミテ穩カナル夜ヤナト喜ぶ。思ノ外忽チ起ル数発ノ砲声ハ、眠レル木草ノ夢モ禽獸ノ眠リヲモ覺シテサマヨウ有様よ。只家外ヲ眺メテ心地ヨキハ我ガ頭上満面トシテ月ハ本野ヲ輝（ス）ナリ。斯ク朝ヨリ終夜猛撃ノ砲声ハ絶ヘル事ナク空氣ヲ震盪ナセシモ、出発ハナカリシハ幸ナリキ。亦此日午後六時頃、恤兵品トシテ陸軍恤兵部ヨリ左ノ品ヲ頒タレタリキ。十枚壹組ノ封威（緘）繪端書、栗ヲコシ壹個、靴下壹足ツツ各人ニテ頒タレタリ。栗ヲコシハブレ（リ）キノ箱ニ詰メ、イト美ナル飾ヲナシ、亦テイサ菓子ニテ松竹梅ヲ栗ヲコシニ飾リヲナサシメ、実ニ此時ノ感情ハ茲ニ頭スヲ得ザル程ノ喜ビナリキ。

十二月二十四日

天気温度ハ前日代ルナシ。亦砲声モ前日より勝ル程ニテイツトナク心ハ安カルヲ更ナリ。マア一戦國ノ世トハ云フ物ノ心よ可（カ）らぬ事よナ一。余ハ病氣ニテ獨り隅（寓）室ニ引キ籠リ外ニ安事ハナケレドモ、只ダ古里ノ両親ヲ思フ。亦一々前方ノ砲声ハ烈シキ為メニ氣ニ掛カル。実ニ此程寒サニ向ヒ前進ドモセシ事在ラバ、敵弾ニ蔽（斃）フルハよりモ此寒氣ハ一層こわシ。

デモ命アラバ是レガ我等ノ職務故、何時ヲ問ハズ出デテ飛ビ入ル丸ノ中へ、併シ是レハイトヨリ安シケレド、如何ニ思フトモ寒サハ恐ロシキナリト、兎や角と獨リ小室デサ、ヤキツ、日ハ西山ニ傾キ、又鳴ル砲声ハ身ニ浸（滲）ミ渉ル。此夜幸ニ何もナク眠ルヲガ出来タ。

十二月二十五日

天気晴天、凡テ前日ト全（同）ジ。亦砲声モ寧口前日ヨリ猛烈ナルモ何事モチンヤンノ小屋ニ眠ルヲガ出来多。

十二月二十六日

天気晴天ナルモ、温度ハ矢張華氏ニテ零下二十度以下デ在タガ、砲声ハ前日ニ同ジク心ハ安ジル事ナカリシモ、本日ハ遼陽へ正月ノ馳走物品ヲ買ニ兵卒ヲ行カシタ。之ガ為メ分隊ハ二三日前日ヨリ種々と協議ガ在タガ、随分面白イ相談ガキマリ愈々本日午前九時出発、遼陽に趣ケリ。其他何事ナシ。

十二月二十七日

天気晴天ナルモ寒風ハ前々日に同ジ。何も変リタル事ハナイ。

十二月二十八日

天気晴天デ在タガ、演習ハ午前午后共、分隊各個ノ運動デ約三十分間デ在タ。此日前方ハ意外ニ穩デ在タ。本日午前十時頃、営行清水健蔵ハ販隊セリ。遼陽行田中米造ハ午后四時半頃販隊セリ。此日会報ニ曰ク。凍傷者救護ニ付テ衛生隊ノ受持ハ周家官屯、抓樹子、十里河ノ間ニシテ救護所ハ衛生隊本寄ニ置ク。救護員トシテ左ノ人員ヨリナル。軍医一、衛生部員二、担伍一（四人伍ヨリナルモノ）、當番一トス。此受持区域巡視ハ四人伍ヨリナル担伍一ヲ以テ、夜間十時ヨリ天候ニ依テ一回、若クハ数回トス。此ノ実施ハ廿八日正午ヨリトス。故ニ中隊ハ即チ本日正午ヨリ、第一分隊ヨリ順序ニ當番一及ビ四人伍ヨリナル一担伍ヲ出服セシムベシ。該担伍ハ常ニ脚絆（絆）ヲ穿チ宿舎ニアリ。命令アルニ応ジテ巡視又ハ救護ニ従事スルヲ。交代ハ翌日ノ正午ニ於テナスモノトス。

衛生隊命令。一月一日東方ニ向テ天皇后皇（皇后）兩陛下ニ拝賀ヲナス。並ニ萬歳ヲ祝ス。依テ午前十時迄ニ本部東南方空地ニ集合スベシ。服装ハ一般軍装ニシテ、下士以下背囊ヲ除キ夏衣袴ヲ脱ス。勲章記章ヲ佩用スベシ。

十二月二十九日

午前八時四十分、起床シ面洗ニ出デ四方ノ空ヲ高ク拝シ（ス）ルニ、天気曇天ノ模様ニ

シテ心ハ波（和）ム斗リデ在タ。丁度余ハ起ントスル時ニ当リ、他分隊ヨリ左ノ表ノ書類ヲ持テ来タ。即チ濱田聯隊区管内戦時ニ於ケル情況一斑一覽表デ在タ。之レハ全管内出征者ニ慰問旁々ニ送與セラレタノデアアル。之ヲ見テ居ル中ニ前方ニ於テハ数発ノ一声（斉）砲撃ハ空ニ轟キ、地ヲ震ハセ次デ我ガ耳ニ入タノデ在ル。ハテナ新年ハ将ニ二三日ノ中ニ来ラントスル今日ナルニ、惜ムベキ露助ハ己ガ企ハ達スル出来モセデ、矢張砲撃ヲ試ミルナ——。ヨシヨシウタバウテ決シテ恐ルニ足ラヌ。前方ニハ我軍ガ嚴重ナル警戒ヲシテ居ルノデアアル。

濱田聯隊区管内戦時ニ於ケル情況一斑

島市郡名	戸数	人口	在籍軍人数	國債配當額	國債申込額	軍資献納額	毛布寄贈数
				円	円	円 厘	
松江市	8,120	35,142	748	174,086	174,150	1,132 043	1,017
八束郡	16,089	77,519	1,574	416,874	608,950	369 011	1,716
能義郡	8,484	41,356	901	996,473	1,107,675	529 560	1,103
仁多郡	4,467	22,615	640	196,473	368,450	23 844	353
大原郡	6,306	29,690	602	308,475	363,050	192 695	438
飯石郡	7,000	34,136	574	456,325	444,350	107 872	500
簸川郡	25,589	127,445	2,648	1,729,526	2,091,306	3,581 530	2,943
安濃郡	5,626	27,274	796	284,810	355,375	163 915	709
迹摩郡	7,970	40,444	910	262,375	352,425	571 910	1,003
邑智郡	12,779	66,019	1,201	437,360	545,825	412 194	1,787
那賀郡	20,022	106,329	2,436	669,620	1,058,525	875 000	2,518
美濃郡	10,802	50,917	1,011	365,575	411,125	740 092	2,139
鹿足郡	6,425	30,141	606	394,908	463,725	419 959	908
隱岐島	7,598	38,104	1,029	—	136,375	743 115	624
双三郡	12,622	70,498	2,101	438,600	463,450	508 085	1,071
比婆郡	12,622	70,498	2,101	438,600	463,450	508 085	1,071
計	171,956	864,042	18,882	6,719,619	8,360,501	12,525 635	20,118

備考 本表外銀行又ハ共有財産等ヨリ國債應募シタルモノ五万一千五百円アリ
本表外軍資献納者ニシテ平和克復迄毎月二円ノ者一名、毎日貳銭ノ者一名、毎年壹円ノ者一名、貳円ノ者一名アリ

（編者注）双三郡と比婆郡の数字が全く一致しているのは恐らく書き写しによるミスであろう。

其後前方ノ砲声ハ頗ル猛烈デ在タガ、何事もナク此日を送ルハ出来タ。午后九時中隊ヨリ左ノ命令ハ達セラレタ。明日ハ舎内外ノ大掃除、殊ニ注視スベキ点ハ路傍ニシテ結氷を除キ汚物ノ路傍ニナキ様注意スベシ。之レデ此日ハ彼レ此レ十時ニ至リ睡眠ニ付カント思ツテ居ルト、内藤上等兵酒ヲ持ち販リ一杓傾ケタ。一杓ヨリ二杓、二杓三杓三（四）杓トフ様ニナツテ、遂ニ水筒二本ハ足ラジ、一本余ガ買ヒ来リ遍ニ三本ノ酒ハ傾ケテ夢ノ臥戸（所）ニ付イタガ十一時頃、二三度ノ一声（斉）射撃ノ砲声ハ耳シタデアルカラ、フト夢ノ結び緒モ覚メタガ、其後、何事モナク遂ニ夢ヲ結ビ心地能ク夜ハ更ケタ。

此夜も我ガ心を慰メタハ夢デ在タガ、之ハ何かト云ヘバ僕ノ妻ヲ求メタ夢デフト眠ガ覚メ、見ルト寒サニヲカサレテ云フニ謂ハレヌ夢ヲ結ビシダハ（シダハ）其ノ最終デ在タ。

十二月三十日

本朝ハ早々眠モ覚メ午前七時半ニ起キタガ、天気曇天デハ在タガ温度ハ意外ト云フ程ニハナイケレドモ、暖デ在タ。シテ温度如何ニト考フルト、此迄ノ例ヨリ察スルバ、零度以下十度位デ在タロト思ふ。其レカラ朝食も終リ上等兵始メ兵卒ニ命ジテ、前日中隊令ノ如ク舎内外ノ大掃除ハ開始シタ。午前九時、中隊ニ集ヘ（ヒ）当館ニ集マレデ集ウタ。矢張大掃除ノ会報デ、前ニ第三軍ノ情報ガ少シ在タ。わが舎ニ販ルヤ上等兵大掃除ノ命令ヲ達シテ、之ニ着手セシメタノデ在ル。此日該掃除ニ付テ最モ勉強シタハ土居デ在タ。シテ大掃除モ稍々終ルト思フト、昼食ノ報ハ来リ之モ終ルト中隊カラ餅チキ（ツキ）ノ材料ハ明キタト云テ来タカラ此ノ準備ニ取り掛リシガ、本日ハ非常ニ北風ガ激シキ故、余リ分隊ハ不幸ニシテ中隊中ノ一番不良ノ宿舍故、家ハ少ニシテ萬事材料ニ乏シク、為メニ當低（到底）分隊内デ餅ヲ製スル不能故ニ、内藤上等兵中隊ヘ願ヘ（ヒ）、中隊長舎ニ於テ其ノ後ニ於ケル序デヲ頼ミテ、午后三時ヨリ餅チ（ツ）キヲ始メタ。出来シ餅ハ実ニ能ク出来上リ、大ニ満足シタ。終タノハ午後五時デ在タカラ、水筒ニ二本ノ酒ヲ買ヒ求メ上等兵二人ト僕ト傾ケタノデアル。本日寫シタ会報左ノ如シ。

（十二月二十八日情報 第三軍情報）

十二月二十六日（午後十時二十五分發）。本日二十八日知砲ハ二龍山ニ四十五発、松樹山ニ二十六発、補備砲台ニ五十二発、同東南方砲台ニ十四発ヲ發射シ四二、一六、一六、六ノ命中ヲ得、二龍山、松樹山ニ於ケル命中、多数ハ咽喉部付近ニ落下シ、又補備砲台中間ハ當分使用ニ堪ザルニ至レリ。

赤坂正海軍砲ハセバストボールニ向ヒ約二十ヲ發シ貳発ノ命中ヲ得、又タ、黄金山麓上流水製造場ヲ砲撃セシニ、午後一時同地附近ニ大ナル火災ヲ起シ、同五時ニ至リ燻（鎮）火セリ。松樹山作業場ハ昨二十五日午後三時、内外蓋部、前方約五米突ノ暗路頂面ハ爆發シ、其一部ヲ占領シ、之レニ四十七密利一門及ビ歩哨ニヲ置、絶ヘズ制壓セリ。

亦、二龍山ノ各坑道ハ目下何レモ填塞中ナリ。其他ノ方面ニ於ケル坑路作業、殊ニ艦龍山兩砲台圍壁ニ対スルモノアリテハ、彼我甚シク接近シ（五乃至五十米）ニ来ル。随ヒ日夜爆薬ヲ以テ盛ニ妨害ヲ加フ（へ）アルモ多少進行シツゝアリ。

昨二十五日夜、多（大）イニ百敵ハ全砲火ノ援護下ニ、後之平頭村及南方半島ニ来襲セシガ我ガ兵之ヲ全ク襲（撃）退セリ。我ガ負傷者下士四。

十二月廿八日午後十一時十八分發。本月（日）廿八日砲二龍山ニ四十五發、松樹山ニ十五發、同補備砲台ニ五十四、同砲台五發、四五、十一、十八、四ノ命中ヲ得、何レモ多大損害ヲ與ヘタリ。殊ニ砲備砲台ニアリテハ余（予）備砲（十二三ノ内）一二ヲ除キ他ハ悉ク土砂ニ埋メ、一時其ノ使用ニ堪ヘザルニ至レリ。同東港ドック附近ニ約二十發ヲ發射セリ。又鉢卷山ニ据付アル十五日知砲ヲ以テ本日二龍山咽喉部附近ヲ砲撃セシ。東南工部并ニ機關砲及十二日知加農砲各一門ヲ破壊セリ。

海軍砲ハ本日セバストボールニ三十發ヲ送り三發ノ命中ヲ得タリ。二龍山本日夕ヲ以テ全ク填塞終レリ。松樹山ノ我ガ兵暗路ノ一部ヲ占領以來、大ニ敵ノ對抗路征圧シ得ルヲ以テ、引續キ作業シ目下何レモ藥室堀口中。二十八日死傷者四十六名。

（十二月二十九日情報）

第三軍情報。十二月二十八日午後九時二十八分發。予報ノ如ク第九師団（第十八聯隊）ハ本日午前十時、二龍山砲台正面胞牆大爆破ト共ニ突撃シ、同胞牆ヲ占領シ、重砲及ビ野戰砲ノ援護ニ依リ、敵ノ重砲火ヲ犯シテ永久工事ヲ施シ、其占領ノ畧ボ確實ナルニ及ビ、午後四時、更ニ内部重砲線ヲ突撃シテ直チニ同線ヲ占領シ、尚進デ咽喉部ニ向ヒ同所ヲ擱手セシ四五十名ノ敵ヲ繁攘シ、午後七時三十分終、全砲台ヲ占領セリ。此ノ日最モ妨害ヲ加ヘシモノハ、椅子山アンス山、及アンス山東南方砲台ナリキ。我ガ死傷不詳ナルモ約一千人。

二十九日午前十時半發。

同砲台ハ目下占領確實ニシテ、松樹山及自後進出ニ対スル設備着手中ナリ。新ニ大玉溝東北方ニ据付タル海軍拾五日知砲ヲ以テ、昨二十八日始メテ老胡尾半島諸砲台及ビ黄金山砲台ヲ砲撃シ、城頭山、饅頭山ニ二發、黄金山砲ニ三發ノ命中ヲ得テ、大ニ敵ヲ狼狽セシメラレタリ。

同十一時發。捕虜ノ言ニ依レバ、二龍山ニアリシ敵兵ハ狙撃歩兵第二十六聯隊ノ兵約五百五十名、外ニ水兵若干名ニシテ内、約二百五十八埋没シ又射殺セラレタリ。捕獲（獲）品、大口径砲四、小口径七、四十七メ（ミ）リ砲約三十門、機關砲二、其他若干アリシモ、目下取調べ中。

十二月三十一日

愈本日ハ年取日トナリ非常ナル多忙デ在ル。朝故ニ朝早く起キテ先ヅ朝食モ終リ、其レヨリ大掃除ニ取掛リ、分隊亦一部ハ料理ニ掛リ、日ハ過ギテ早ヤ夕暮ニ及ビ、漸ク一月一日ノ馳走ノ準備モ出来、年取ヲ取ルコトニシテ酒ヲ傾ケ始メタガ、段々ト傾ケル内ニ一同暈（酔）モ廻リ、コレカラ各々特有ノ藝ハ出タ。此藝ハ劍舞、新内、芝居、実ニ盛大且愉快ニ宴会ヲヤッタ。午後十時半閉会。各々夢ノ臥戸（所）ニ付タ。

廿八年一月一日

夜ハ明ケテ早ヤ一月一日ハ来リケリ。此日天気ハ曇天デ在タガ只ダ東ノ空ノ之ハレテ、太陽ハ赫々トシテ顕出レ居タ。実ニ愉快ソウナ日デ在タ。先ヅ正月ノ御ゾウ煮ヲ食ベテ中隊ヘ年始ニ行キ、午前十一時整列デ、大隊本部東南方空地ニ整列シ、東方ニ向ヒ遙ニ天皇皇后兩陛下ノ萬歳ヲ祝シ、午前十一時四十分此式ハ開（解）散トナリ、舎ニ販ルト砲兵三島上等兵、半紙一束ヲ年始ノ持参ニシテ来タ。其ヨリ同氏所ヘ呼バレテ内藤上等兵ト二人行キ馳走ニ成リ、午後壱時半ヨリ中隊ノ将校以下下士一同、中隊本部ニ於テ互禮會ガ催サレ、午後五時半頃、念紀（紀念）ノ写真ヲ取り各々開（解）散。此時余ノ舎ヨリ兵卒ガ早く販レト迎ヘニ来タカラ直ニ販リ見ルト、大和勇士ハチヤンノアバラ屋ナルモ、余ノ舎ト思ヘバ、サナガラキラ星ヲ並ベタガ如ク居並ビテ酒宴ノ真最中デ在タ。此ノ席ニ加ハリシ他ノ勇士ハ、砲兵上等兵三島、某砲兵上等兵、某歩兵二岡上等兵、砲兵一等卒□ニ野原森三郎氏デ在タ。次ニ深石曹長、矢田軍曹、足立輪卒デ在タ。実ニ古今無類ノ盛大ヲ極メ午後八時頃閉会。此レヨリ芝居見物ニ行タノデ在ル。外題ハ何ヤラ毒殺事件及ビ劍舞デ、午後十二時頃販舎、夢ヲ結ブニ至ル。

一月二日

天気晴朗、イト宇ラ、カナ日デ在タ。午前ハ分隊ノ事務ヲヤリ、午後二岡上等兵ニ招カレテ大ニ酒宴ハ盛大、約二時間會モ過シタル頃、□真田上等兵ガ来リシ由ヲ云フテ来タ。ダカラ待タシテ居タガ、待ツ（チ）兼ネテ余ノ居ル処ヲ尋ネ来リ、茲ニ於テ亦一杓傾ケ、同氏余ノ宿舎ヘ販タハ午後五時半デ在タ。同氏ハ販隊、其レヨリ約壱時間ノ后、芝居見物ニ行キ大ニ傾ケタガ、此ノ夜ノ藝ハ三浦子別レノ段、宗トウ（任）、貞トウ（任）ノ処、アワノナルトジンレイバ（巡礼場）、熊谷母親ヲ竹槍ニテ突ク処、劍舞デ在タ。此ノ藝終リ販舎シタ時ハ午前壱時デ在タ。

亦二日午前十時ノ情報ニ左ノ事ガ在タ。

一月一日午後十時十分発。第三軍情報、総司令部電話、第三軍報。只今旅順降服ノ通報アリ。詳細後ト云フ情報デ在タ。之レヲ聞ク我ガ同胞ノ喜ビハ胸ニ余、一声ハ天地モ崩レン斗リデ在タ。

一月三日

天気晴朗ニテ温度零度以下二度デ在ル。此日起床スルヤ朝食喫セントスル時ニ當リ、中隊ヨリ来レデ行クト第三軍ノ情報。之ハ降服セシ原因ガ在タガ茲ニ書カズ後ニ廻ス。午前中モ過テ午後二時ハ来リシト思フトキ、早川本三郎氏面会ニ来リ一杓傾ケテ、午後四時三十分ニ販ル。実ニ本日は迄ノ愉快ハ何トモ云フ様ナカリケリ。日ハ全ク西ニ没ス。亦三日トテ、分隊ハ一杓傾ケ午後六時三十分ニ至リ芝居見ニ行タガ、此夜ノ芝居モ亦云ふ様ナク面白カツタ。亦ヲカリ節ハ一層ノ興味在タ。此時フト本国ヲ思ハレ涙ガ出タ。二三遍何ヲ思ツタカト思ヘ（ヒ）メグラセバ、壮士芸居デ、或ルー等キヤウカク（侠客）ノベラボー等、二三名集リテ何トカ云テ美婦人ヲ濠（強）姦スルヲ助け、其時、令（例）ノチャ子令嬢ガレンボ（恋慕）シタトキデ在タ。我レモ本国ニ在レバ何ノ情ニ勝ル愉快ヲ極メタデ在ロート、郷里ヲ思ヒ出サレタノデ在ル。まァー此夜夜半モ下リ、一時三十分デ在タガ茲デ余輩ハ全ク終リ夢結ビ（ブ）。

一月四日

早ヤ四日ノ朝ハ来リテ眠ガ覚メルトフト不愉快ナ心ガ起タ。何ゼナラバ昨夜ノ芝居中ノ藝題、チャコ令嬢ノ事ヲ思ヒ感ニ情ニヲカサレタノデ在ル。如何ニ思フモ忘レラレナカツタ。昨日、三日会報ニ在リシ旅順ノ情報ガ廻リシガ、之レデー層前ノ思ハ忘レタ。其レハ次に送り余ガ如何ナル愛情、亦、恋ノ情愛ある場合、亦、キノウ（昨日）隅（偶）々、陥ルルモ斯克感情ヲヲカサレタ事ハナカツタガ、出征以来、今ヤ十ヶ月ヲ超ヘントスル今日ニ於ケル間、常に上陸以来、銃砲声ニ身ヲ堅メラレ、亦命令ヤ軍隊ノ事デ頭カラ押ヘラレ、恋ノ楽ミヲ一とシテナセシ事ナキ為ナラント思ハレタ。スルト前方ニ於テ猛烈ナル砲声ハ耳ニ轟キタ。シテ前ノ感情ハ忘レテ砲声ヲ安（案）ジタノデ在ル。此時何時ト思ヘバ午後四時十分デ在タ。其非常之砲声ハ猛烈デ在タガ、夕陽全ク西山ニ隠レシヨリ砲声ハ止ヌ。併シ本日ハ意外の大風デ南ヨリ起リ夜ニ至ルモ止マズ、物騒ナル日デ在タ。

一月二日午前十時ノ會報ニ在リシ情報ハ左ノ如シ。

一月貳日午前一時發。第三軍第十六號。昨一日午後五時頃、敵ノ軍使水師營南方ノ我ガ第壹線ニ来リ、我ガ將校二次ノ書簡ヲ交附シ、同九時小官之レヲ受領セリ（小官トハ乃木大將閣下ナリ）。旅順口一千九百〇四年十二月、貳千九百四十五。貴下交戦地域ノ全般ノ形勢ヲ考察スルニ今後ニ於ケル旅順口ノ抵抗ハ不要ナリ。依テ無益ニ人名ヲ損害セザル為メ余ハ開城ニ付談判センヲ望ム。若シ閣下之レニ同意セラルハニ於テハ、開城ノ條、順序ヲ定議スル為メ委員ヲ指名シ、並ニ余ノ委員該委員ト會合スベキ場所ヲ撰定セラレンヲ望ム。余ハ此機會ヲ利用シ余ノ敬意ヲ表ス。

旅順攻圍軍司官男爵乃木閣下。

依テ小官ハ我ガ軍ヲシテ齊シク今天明後、直チニ彼ニ交付セシムル筈。一千九百〇

五年一月二日。旅順攻圍軍司令部ニ於テ。

貴下余爰ニ開城ノ条件及順序ニ付キ談判セントスル閣下ノ提議ニ同意スルノ充挙ヲ有ス。之ヲシテ旅順口攻圍軍參謀長少將伊地知幸介委員ニ指名シ、尚ホ若干名ノ參謀及副官ヲ隨行セス（シ）ム。即チ一千九百〇五年貳日、正午水師營ニ於テ貴軍委員ニ會合ス可ス（シ）。双方ノ委員ハ調印ノ後批准ヲ待タズシテ、直チニ好（効）果ヲ生ズル開城規約ニ署名スルノ全權ヲ有ス可ク、其全權委任状ハ双方最上指揮官ノ署名シタルモノニシテ、互ニ交換ス可ス（シ）。余ハ此機會ヲ利用シ敬意ヲ呈ス。

攻圍軍司令官男爵乃木將軍

關東要塞地区司令官ステッセル閣下

一月三日ニ於ケル其后ノ第三軍情報。

一月貳日午後七時四十五分、兩國全權委員間ニ於テ開城規約本調印終レリ。

一月五日

本日ハ新年宴会ノ日ニ相當ス。天氣極メテ晴朗。何トモ比類ナキ心地能キ朝、何處トナク明キ日デ、朝起夕時ハ午前九時三十分デ在タ。温度ハ零下十度デ、水氣ヲ有スル處ハ悉ク返ヘテ居タガ、前ノ如ク春ニハナキホガラカナル天氣、心地能キ儘マ朝食ニ向ハント箸ヲ手ニ取ルト直チニ會報ニ集マレデ在タ。就テ取ル物モ取り敢ズ朝食モ其儘ニシテ置テ行タガ、左ノ情報ヲ達セラレタノデ在ル。之ハ三日ニ於ケル情報。

第三軍報第一一號（三日午前十時半發）。

昨日午後五時四十五分ヲ以テ本調印ヲ終リシ開城規約本文左ノ如シ。

第一條 旅順要塞及該港ニ在ル露國陸軍々人及義勇兵並ニ患者ハ凡テ之ヲ捕虜トス。

第貳条 旅順港ニ於ケル全堡壘、砲台、艦船艇、兵器彈藥、馬匹其他一切ノ軍用諸材料、官舎官有諸物件ハ現状ノ俛之ヲ日本軍ニ引渡スモノトス。

第三條 前貳ケ条ヲ承諾スルニ於テハ其擔保トシテ来ル一月三日正午迄ニ椅子山、小案子山、大案子山及其東南方一帶ノ高地上ニアル堡壘砲臺ノ守備ヲ撤シ日本軍ニ交付スベシ。

第四條 露國陸海軍ニ於テ、本規約調印ノ當時ニ現存セル第貳条ノ諸物件ヲ破壊シ又ハ其他ノ方法ニ於テ現状ヲ變更スルト認ムル時ハ談判ヲ廢止シ日本軍ハ自由ノ行動ヲ取ルベシ。

第五條 在旅順口露國陸海軍官憲ハ旅順要塞配備圖、地雷水雷其他危險物ノ布設部及在旅順口陸海軍編成表、陸海將校官職等級氏名簿、文官官職氏名簿、軍隊艦船艇名簿、及其他乗組員人員名簿、普通人ノ男女人種職業員數表ヲ調整シ日本軍ニ交付スベシ。

第六條 兵器（各人ノ携帯兵器ヲ含む）彈藥、軍用諸材料、官舎官有諸物件、馬匹、艦船及其ノ内部ノ諸物件（私有物ヲ除ク）ハ悉ク之ヲ現在ノ位置ニ整置スベシ。其授受

ノ方法ニ関シテハ日露兩軍ノ委員ニ於テ議定スルモノトス。

第七条 日本軍ハ露軍ノ勇敢ナル防禦ヲ名誉トスルニ依リ、露国陸海軍将校及ビ所属官吏ノ帶劍及ビ直接生活ニ必要ナル私用品携帯ヲ許ス。

又、前記将校及官吏義勇兵ニシテ本戦役ノ終局ニ至ル迄、武器ヲ執ラズ、如何ナル方法ニ於テモ日本軍ノ利益ニ反對スルノ行為ヲナサバル^レヲ筆記宣誓スル者ハ本國へ販還スル^レヲ承諾ス。陸海軍将校ニハ各人ニ壺（壹）名宛ノ從卒ヲ随行セシムル^レヲ許ス。此從卒ハ特ニ宣誓解放ヲナス。

第八条 武装ヲ解除シタル陸海軍下士兵卒、及義勇兵ハ其ノ制服ヲ着用シ携帯天幕及所有私有物件ヲ携へ、所属将校ノ指揮ヲ以テ日本軍ノ指示スル集合地ニ至ルベシ。

但其詳細ニ関シテハ日本軍ノ委員ニ於テ之ヲ指示ス。

第九条 旅順港ニ在ル露国陸海軍ノ衛生部員及ビ經理部員ハ、病者及ビ捕虜救護給養ノ為メ日本軍ニ於テ必要ト認ムル時機迄、日本軍ノ衛生部員及ビ經理部員ノ指揮ノ許ニ残留シテ、引續キ勤務ニ服セシムベシ。

第十条 普通人民ノ所置、市ノ行政會計事務、及之ニ関スル書類ノ引継ギ、其他本現程施行ニ関スル細則ハ本規約附録ニ於テ現定ス。

右附録ハ本規約同一ノ効力ヲ有ス。

第十一条 本規約ハ日露兩軍ニ於テ各一通ヲ製シ、調印ノ時、直ニ効力ヲ生ズ。開城附録ハ之ヲ畧ス。

守兵ノ現在員ハ水兵及ビ義勇兵等ヲ加へ、総員約參万人ニシテ内約貳万ハ病床者ナリ。健康者内譯ハ尚ヲ未詳。又、軍旗ハ悉ク之ヲ燒棄シ大小艦船ハーツモ航行ニ堪ユルモノナシ。

一月六日

天氣晴朗、一点ノ雲モナクイトホガラカナル日デ在タ。此日ハ午前午后共演習ヲナス。実ニ愉快ナル日ハ送り、冬ノ日ノ世ハ一面ノ銀世界トモ云フベキ期ナルニ、サハアラデ、イト心地能ク春ノ初梅モ將ニ笑ヲ含マンガ如キ日デハ在タ。午后ノ演習モ終リ舎ニ販ルト錦織米太郎氏面會ニ来テ呉レタ。先ズ々々何事モナク日ヲ送リテ、日ハ全ク没シテ既ニ午后ノ十時トモ思シキ頃ヨリ、前方ニ於テハ猛烈ナル銃砲射撃ヲ開始シ、夢モ為メニ覺サレテ心ヲ淋カラシメタノデ在ル。シテ如何ニナル事ヨト亦一ツ思ハ増シタガ、遂ニ何サワグ事モナク一夜ヲ明シテ翌日トハナリス。

一月七日

天氣晴天ニシテ春ノ日ニモ勝ルガ如キ七日ニハ、午前九時半ヨリ亦々演習ハ為シタリケリ。午后ハ舎内外ノ大掃除ニテ之ヲ終リ、昨夜猛烈ナル銃砲声ニ眠ヲ覺サレテ、之カ原因

セシナランヲ、タゞ眠ニ付キ何時知ズ寓室デ眠リテ居タガ、日ハ早ヤ西ニ傾キ午後ノ四時頃ト思シキ頃、足立君、足立君ト二声三声呼ハレシニ、眠ハ覚メテハツト驚キ出テ見レバ、衛生係リノ文谷軍曹デ在タ。君本日ハ検査ヲナス、之ヲ見テ置カレヨト出サレシ紙片ヲ見スルニ、何時呼集アルヤモ知ズトアリテ之ヲ見ヨリ彼ノ人ハ眠ラルハ。残りシ余ハ一時茫然トシテ何考ヘモ出ズタ、ジ（ズ）ミテ居タガ、フト氣ニ付キシハ各兵ノ武装ノ整否ナリ。依テ彼ツ等此處等（「あちらこちら」の意）ト見渡セバ乱雑実ニ極マリナシ。之レハ大變ダ、若シ今夜デモ非常呼集ヲ為サレナバ、當低（到底）示サレタル時所ニハ出ズル不能トサ、ヤキ、第一ニ余ノ室ノ装具、私物ヲ取りカタヅケテ居ルト或兵ハ不審ニ思ヒシヤ、異ナ顔ツキヲシテ見テ居タガ何一ツ物モ云ハズシテ居タ。間モナク稍々余ノ装具、私物ノ取カタヅケハ出発ニカナフ様ニナリシ故、上等兵ニ命ジテ普通外套ノ梱包ヲ為サシメタシル（リシ）。各兵ハ覺トリシニヤ、各々装具私物ノ取りカタヅケニハ取り掛リ、何時非常呼集ニ應ゼラルハ様ニナシタリキ。マア軍隊ト云フ者ハ実ニ五月蠅。今ヲ考ふレバ既に命ヲバ風前ノ灯トモ消ヘテ失せん戦地ノ夫ニ在テ、殊昼夜ノ別チナク砲丸ハ空ニ飛ビ、銃丸ハ亦地ヲ落チル場合ニ在テ、非常呼集アルトハナサケナヤ。早ヤ此ノ前面ノ敵ヲ拂フテ、ウラル山ノ絶頂ニ日章旗ヲ植テ日本ノ光榮ヲ輝ヤカシ、日露平和トナリテ故郷ニ販リナバ、我ハ背子トノ中睦マジク暮シ、其日ヲバ何時來ルナラント思ヘ（ヒ）出バ、前後モ知ラザル程ナリキ。稍々在リテ、イヤ々々我ガ身ハ今ヤ一ノ大ノ国難ニ際シ、我ガ日本帝国ノ盛衰ニ係ル重任ハ身ニ肩ニ担ヒシハ輕ルカラズ、左様ナル背子ト暮シ契ノ時ヲ今思フトキニ非ズ。我能ク国君ニ盡シテ美事目的ヲ達セシ其ノ暁キニハ、吾レ獨ノ喜ビニ非ズ。数千万余国民ノ喜ブ處トナント我レデ我ガ心ヲバ堅メテ、其レ其レ準備ヲナサセ終リテ、晚餐モ終リ、時ハ早ヤ過ギテ午後ノ十時トモナリニケリ。依テ皆々一同ハ心ナガラ呼集ハ胸ニ修（収）テ夢ノ臥戸（所）ニ付キニケリ。

此日第三軍へ賜ハリシ勅語ヲバ左ノ如シ。

勅語（第三軍卅八年一月六日）

旅順ハ極東ニ於ケル水利ノ重鎮ナリ。第三軍及聯合艦隊ハ協同戮力久シク炎暑ヲ犯シ、苦難ヲ凌ビ勇敢奮闘克ク其鉄壘ヲ奪取シ、堅艦ヲ織（殲）滅シ、敵ヲシテ遂ニ城ヲ開キ降りテ請フニ至ラシム。朕深ク汝將卒ノ能ク其重任ヲ全フシ偉大ノ功績ヲ奏シタルヲ嘉ス。

大山巖右ノ勅語ヲ賜ハリタリ。謹ンデ傳達ス。

六日ノ午后五時頃、内地国民ノ諸氏（重ニ岩城某）ヨリ藁製長靴ヲ寄送セラレタルヲ配布アリタリ。

一月八日

今日ハ三十八年ノ年ノ始メニテ陸軍始メ日ニ當リケリ。天氣ハ云フニ盡セヌ晴朗デ在タ。

今日は一般休業故ニ午前十時會報終リテ、其後、中隊殿ニ許可ヲ得テ、二十一聯隊ノ固有隊なる第十中隊長ニ兼テノ彼言ニ依リ面會ニ行タガ、久シ振リナ事トテ酒ハ出サレテ馳走ニ成リ、昔ヨリ今日ノヨモ山ノ話ハ出サレテ共ニ胸襟ヲ開キ午前一時頃、暇ヲ乞フテ互ニ袖ヲ別チ、其レヨリ内田軍曹之許ヘハ行キテ、亦酒ヲ出サレテ馳走ニナリ、茲ハイヅコト考フレバ、共ニ現役中ハ苦樂ヲナシテ武術ヲ亦共ニ習ヒシ竹馬ノ友タル内田氏ノ寓室ナリキ。出デ水入ラヌ一腸ヨリ出デシガ如ク、心ノ内ハ明シ様タル兄弟トモナキナレバ、共ニ身上ノ密談ハ段々ト重ナリテ、止ム時ナク、中ばへ来リシハ佐々木軍曹ナリ。之モ亦苦樂ヲ共ニナシテ職ヲ勉メシ人ナレバ、三幅對ハ満野ニ集リテ胸襟ヲ開ラキテ酒會ヲ催セシハ、実ニナツカシキモ亦嬉キモ山々ナリキ。シテ話ハ胸ニ満ツ（チ）テ話セド語レド終ルナク、一杯、二杯、三杯ト傾クル内ニ酒ハ一升ニ近ク傾ケテ其ノ量ハ深クナリシモ、別ルハ期ヲバ忘レテ話シ、其ノ内ニフト気が着（付）キタルハ、本日ハ何時非常呼集アルヤ知レザルハ胸ヲ放レナク、為メニ飯刻ヲバ思ヘ（ヒ）出サレテ、時計ヲ見レバ早ヤ午後四時ヲ下ル十分ニテモ（ム）リニ暇ハ乞ふテ、後日ノ拝顔ヲバ期シテ互ニ右左ヘト袖ヲ分チ、氏ノヤカタヲバ立ち去リヌ。此時吾ヲ見送りテ出シ人ハ何人ナルヤト後へ振りムイテ見レバ、余ガ満期ノ年ニ入隊シテ余ガ教育セシ服部ナリキ。実にナツカシク彼モ亦ナツカシキナラン。シテ断ハリテ別レテ中沢ニ面會ニ行キシニ、氏ハ伍長トナリテ本日ハ余拳（興）掛係員ノ由ニテ、芝居太夫座ニ居リタル故ニ、土壁ヲ間ヲ置ニ互ニ顔ト顔ヲ見カワシテ、アイサツヲナシタルバカリデ飯ル。其途中、第六中隊ナル赤名軍曹ニ面會シ、昨日ノ無礼ヲ謝シテ別レ様トシタガ、彼ノ人ハシイテトメラレシモ、事情ヲ話シ無理ニ断リ飯リタルハ午后四時半ナリキ。飯舎スルヤ耳ニスルハ本夜非常呼集ノアルラシキチャウコウ（兆候）ナル由ヲ聞キ、諸準備ヲナシテ、午後十時頃ヨリ毛布ヲ梱包セシヲ以テ、惟（唯）ダ防寒外套一枚デ臥戸（所）ニ付イタガ、寒夜ニハ夜具ノ外ナキ為メ時ニ眠を覺サレテ、フツト耳ニスル銃砲声ハ実ニ々々猛烈デ在タ。サナガラ猛風に霰ノ降ルヨリマダヒドイ様デ、満野ニ宿リシ鳥獸モ此夜ニハ安シク眠リシ事ハナカリケリ。此時ハ何時ナラン。時計ヲ見レバ翌九日午前五時で在タ。アテノ最早非常ガアレバ在ル時ダナト思ヘ（ヒ）ツ、亦眠ムル。

一月九日

天氣晴天。先ヅ昨夜ハ非常ナル猛烈ノ銃砲声モ何事ナクシテ、午前午後共予定ノ演習ヲナシタノデ在ル。本日廻リシ第四軍司令官ノ訓示ハ次ノ如シ。

別紙軍司令官ヨリ訓示セラレタル件ハ、將校、同相當官ハ勿論、一兵卒ニ至ル迄デ充分ニ貫徹スル様傳達スベシ。

明治三十八年一月七日第五師団長木越安綱 別紙 第五師団庶第二號訓示

皇威ノ及ブ處、我武維レ揚リ、旅順要塞ハ遂ニ元旦ヲ以テ我軍ノ光輝アル占領ニ歸シ、敵ノ東洋艦隊亦既ニ全滅セリ。是レ我作戰上ニ一大進捗ヲ呈シタルモノナルヤ固

ヨリ明カナリト雖、戦役ノ前程ハ尚ホ遼遠ニシテ、將卒一般益々大ニ奮励ヲ要スベキモノナリ。

回顧スレバ沙河會戦後ヨリニヶ月有半、其間敵ハ大規模ノ編成ヲ行ヒ、其第一第二軍ハ略編成ヲ終リテ我前面ニ在リ。第三軍ノ先頭亦既ニ到着シ、現ニ其兵力ハ歩兵三百餘、大隊騎兵二百三十餘、中隊大小砲兵百五十余中隊ヲ算シ、若シ二月中旬、敵三軍其編成ヲ集結シ得ルニ至ラバ、我前面ニ策動シ得ルノ兵力ハ実ニ歩兵四百三十大隊、騎兵約二百九十中隊、砲兵約二百三十中隊ノ多キニ達スベシ。尚ヲ第四軍編成ノ企圖モ事実トシテ顯ハルコトナキヲ保セズ。加フルニ、敵ノ第二太平洋艦隊ハ遠カラズシテ我近海ニ現出シ得ルノ情況ニアリ。第三艦隊亦或ハ之ニ繼グアラントス。故ニ戦機一タビ熟スルニ至ラバ、茲ニ振古、未曾有ノ大会戦ヲ惹起シテ彼我ノ運命ヲ決スル事アルニ至ルヤ亦知ル可カラズ。我將卒益々志氣ヲ振興シ、確乎不拔ノ精神ヲ以テ之ニ臨ムニアラズンバ、安ニシテ能ク此大會戦ニ處シテ赫々タル勝利ノ獲得ヲ期スルヲ得ン。

夫レ旅順要塞ノ略取ハ固ヨリ慶賀措ク能ハザル所ナリト雖モ、唯々之レガ慶賀ニ酔ヒ其成功ノ因由ヲ顧ミズ、戦役ノ前途ヲ想ハザルコトアリトセバ、其危険測ルベカラザルモノアリキ。抑モ我第三軍ハ数月ノ功（行）程ヲ費シ、数万ノ生靈ヲ損シ、始メテ略取ノ功ヲ遂グニ、是レ偏ニ該軍將士ノ忠勇壯烈ナル行動ニ頼レルヤ明カニシテ、該地ニ斃レタル数万ノ英靈ハ、吾人ノ將來ニ於ケル動作ヲ督励シ、更ニ大ナル战斗成果ヲ希フノ功ナルヤ知ルヘキナリ。況ンヤ旅順ノ陥落、適々敵ノ奮恚憤恨ヲ激發シ、捲土重来ノ雄圖ヲ画スル亦未ダ知ル可カラザルニ於テヲヤ。吾人豈ニ努メズシテ可ナランヤ。

蓋シ廉恥ヲ重ジテ生命ヲ輕ンジ、國難ニ當ルハ古今ヲ通シテ我帝国軍人ノ精神ナリ。若シ此精神ニシテ中途或ハ漸ク萎靡シ不知不識、諸種ノ弊害ヲ發生スルコトアランカ。之ヲ大ニシテハ以テ國運ヲ危クシ、之レヲ小ニシテハ以テ祖先ヲ辱カシムルニ至ルコト火ヲ睹ルヨリモ明ナリ。存亡ヲ賭スヘキ此大會战役ニ際シテ、如斯失態ナキハ信ジテ疑ハザル所ナリト雖モ、頃来各軍に於テ敵襲ニ際シ行衛不明者ノ頻發スルアルハ甚ダ寒心スル所ナリ。各師団長ハ須ク部下ヲ戒飭シ益々武士道ヲ重ジ、敵ノ辱メヲ受ザルハ覺悟アラシムルヲ要ス。

且ツ夫レ戦争ナルモノハ國家ト國家トノ公事ニシテ此ノ間、個人的無益ノ交通ヲ許スベキモノニアラズ。故ニ我軍ハ於テハ、断然彼我將士無意味ノ會見ヲ許サバルノミナラズ、無益ノ言語ヲ交換シ無益ノ書信ヲ發送スルヲ許サズ。各官其レ此旨ヲ體セヨ。右訓示ス。

明治卅八年一月六日

第四軍司令官伯爵 野津通貫

一月十日

天気晴天ニシテ一点ノ雲モナクウラ、カナル日ニシテ、春ニハアレドマダ巖寒ノ砌リ、今ヤ春の夫モ勝ルガ程デ予定ノ如ク演習ハ施行セリ。前方ヲ遙ニ見渡セバ、カシ（ス）ミテサナガラ煙ノ如ク、然レドモ砲声ハ止マズ、空に震フテ我等ノ耳ニ入りヌ。ケレドモ何事モナク、且、サシテ常日ニ勝リハセデ劣ルニ在リ。依テ心ハ安シク午前午後ノ演習ニハ武士ノ本分タル腕ハ鍛フテ日ヲ送り、ゲニ勇マシキ日本大丈夫ガ吹き来ル。北風ハ淋漓トシテ皮膚ヲ破ルモ何ニノ其ノ、怠ルルナク僅カノ距離ヲバ経ダテタル（隔テタル）左方ニ在テ、スル強固ノ敵ハ前ニヒカヒ（へ）大膽不敵ニモ武ヲ練リ、腕ヲ鍛フトハ亦一チ（ツ）ノ愉味在リ。此夜ハ月ハ赫々トシテ我等ノ往ナル曠野ヲ輝シテ、晴キ冬ノ夜ニ敵ハ来ラズシテ、イト平穩ナル夜ハ送りヌ。

一月十一日

十日モ既ニ無別ニテ送りテ来ルル三十八年一月十一日ハ迎ヘタリ。天気ハイト晴朗ニシテ心地ヨキ日寄り（日和）ナリ。遙ニ前方ヲ見渡セバサナガラ煙ガ一面ニ満州ノ曠野ヲ蔽フガ如シ。北方ハ常々砲声ヤ銃声ノ絶ヘ間ナカリシニ、稍々静マリテ穩カナル日ナリキ。此日ハ烟台ノ停車場ヘト行軍在リシモ、余ハ不幸ニシテ日直ナリキ。シテ此ノ行軍ニハ随行スル不能。獨り偶（寓）室ニ在リテ居タリキ。日ヤ早クモ過ギテ午後ノ一時トモナリタリキ。此時室外ヲ歩ムノ音ハ高々ト障子ヲモレテ入り来ル。アラ何事ナラント筆ヲ修メテ稍々在ルト、行軍ニ行キシ我ガ分隊ノ友愛アル戦友ガ販り来シ音ナリキ。其レヨリ二十二勇士ノ吾ガ战友ハ、顔ヲ並ベテ座ヲシメ、箸ヲ手ニシテ昼食ヲ為セシトキハ、サナガラキラ星ヲ居並ベタガ如クナリ。是レヲ見るル余ノ嬉シサハ実ニ千万無慮ノ思ヘ（ヒ）ナリキ。昼食モ終リテ稍々休憩シ在ルト、持井、清水、棕ノ両三名ニ古有ノ聯隊ヨリ友人来リテ、各々酒宴ヲ始メタリ。余ハ獨り偶（寓）室ニ在リテ事務ヲナス。フト外ニ出テ遙ニ西北ヲ見渡セバ、ナツカシヤ、二ヶ月有余ノ其ノ昔、我ガ同朋ガ夜襲ヲ為シテ占領セシ高地ニハ、忠勇義烈ノ勇士ガ斃レテ後、墓印ヲ植テ貰ハレシ数本ノ吊札ハ北風ニ晒ラサレツ、モ、白ク明キラカニ見ヘニケリ。其ノ許ニ常ニナキ数知レヌ旗植ラレテ、満州ノ冬世ノ寒風ニ吹カレテ勇マシソウニ翻ヘツテ居ヲ見タラ、身ハジユウトシタ。何ヤラ其ノ勇士ノ昔ヲ思ヘ（ヒ）出シ、フト感涙ニモ（ム）センダ。舎ニ入りテ聞クト、該高地ニテ、我日本国ノ為メニアツパレノハタラキヲ為シテ遂ニ死屍ヲ彼ノ山ニ残シテ埋メラレタル士ノ元隊ヨリ来リテ、招魂祭ヲ為シテ旗ヲ植エシナル由。其后、繼デ余ノ室ニ在リテ手紙ヲ書キ居ルト、日ハ時ニ彼ノ山ニ隠レテ暗キ夜ニハ近キタリキ。此時前方ニ於ケル砲声ハ時々心ヲ寒カラシメタリキ。余ニ不満ノ心地ハ起リテ、水筒一本ノ酒ハ大野ニ命ジテ購買シ来リテ一杯ハ傾ケ始メタリ。茲ヘ呼ビシハ大野獨り、之ヲ相手トシテ傾ケル内、ドウヤラ大野モ買ツテ来タラシイ。其ノ後藤本モ来ル。之レモ買ヒ来リ、五六勇士ハ余ノ狭キ室ニ座ヲ占メテ傾

ケ始メタガ、内藤モ来リ、遂ニ小ナリシモ大宴会トナリ、次デ二岡、三島両上等兵ヲ召ネク所モナク、二岡、三島、藤田ノ三名来リテ室ハ狭クナリシ。酒場ヲ轉ジテ、サナガラ大和勇士ハ今ヤ酒宴ヲ開イテ胸襟ヲ開クノ場合トナリ、歌モ出ヅ。思ハザル盛大ノ宴会ハ茲ニ始マリキ。稍々、一杯、二杯ト傾ムケツツ在ル半バ、余ハ不斗モ胸ヲセメ来リ、汗セハシク眉一面ニ出ヅ。益々難儀トナリ、為ニ一時顔色ハ瞬間ニ青々トナリテ、サナガラ人間ノ色ヲ失ヘ（ヒ）タリ。之レ内藤ノ目ニ映ジテ、不意氣遣ヒ、余ヲ大野ニ命ジテ起居スル室ニ連レ販リ、寝サセテ藤井ヲ監視ニ附シ置キタリキ。約一時間ノ后、不意ニ眠リヲ覺サレテ、見ルト非常ニ心地能クナリ、依テ、バンサンヲ少シ契（喫）シテ、亦睡眠ニ付クヤ其後ハ一魘（憩）。

一月十二日

朝起テ室外ヘ出シハ午前八時三十分ナリキ。天高ク臨メバ常ニナキ曇天ニシテ、何時雪カ雨カ降ラン模様ナリキ。午前ハ御定ノ如ク演習ニ出デ、午后、亦演習セシ處、暴風起リテ土烟ハサナガラ空ヲ飛ビテ雪ノ降ルヨリ一層甚シ。為メ、制期時間餘マシテ開（解）散セリ。本日ハ特別加給品トシテ各人ニ付、酒約二合、煙草十本ヲ給セラレ、晩食ノ時ヲ利シテ分隊一同ハ傾ムケタリキ。終リテ余ノ室ニ在ルト藤原春三郎氏ハ来リケリ。依テ二岡ヘ頼ミテ水筒一本ハ求メテ氏ニ傾ムケサシタリキ。暫ク話シテ氏販ル。本日會報中ノ左ノ件在リタリ。去ル三日、御誕生ノ皇孫殿下ハ本日ノブヒト、命ゼラレ、昭ノ宮ト称セラルハと云フ報アリタリキ。

一月十三日

天気晴天ニシテ、午前午后共薪ノ少ナキ為メ高粱ノ根ヲ堀リニ出デタガ、何時ニナキ前方ハ穩デ在タ。日ノ内ニハ銃砲声ハ穩デ在タ。日ハ早モ西山ニ傾キ既ニ没セントシテ居タ處、藤沢軍曹来リテ亦本日モ一杯傾ケルニシタ。此二人ノ差向ヒノ酒宴ハ、約壺時間ニシテ終リ、午後六時過ギタサン（餐）ヲ喫シテ居タリシガ、其處ヘ来リシハ三島砲兵上等兵デ在タ。シテ段々ト語シ内、和氣ガ水筒壺本酒ヲクレタカラ、之ヲ亦三島砲兵、内藤歩兵、雷上等兵ト傾ムケ雅話シテ、開（解）散シタハ実ニ午後十一時デ在タ。勿々我カ室ニ於テ睡眠ニ付クヤ廉い夢ヲ結ンダガ、フト眠リハ覺マサレテ耳ニ入ル大砲ノ音驚クベシ。数発ノ一声（斉）射撃ノ音ハ地ニ響キ天ニ轟キ次デ我偶（寓）室ノ障子ヲピリ々々ト震ハセタル音。愈々夢ハサメテ耳ヲ聳テ静マリ聞キ居ルト、小銃ノ音ハ実ニ猛烈デ在タ。為メニ其後、容易ニ夢ハ結バレナイ。殆ド一時間、夢ハ覺メテ居ルガ遂ニ其後知（ラ）ズ知（ラ）ズ眠リ、翌朝迄一魘（憩）。

本日廻サレシ大三軍開城規約附録、左ノ如シ。

開城規約附録

第一条 本規約ヲ実行スル為メ日露兩軍ニ於テ指定スベキ委員左ノ如シ。

- 一、本規約第六条ニ関スル委員、堡壘、砲台及陸上ニ在ル兵器彈藥等ニ関スル委員、艦船艇等ニ関スル委員、給預諸物件ニ関スル委員、危険物除去ニ関スル委員。
- 二、本規約第八条ニ関スル委員。
- 三、本規約第九条ニ関スル委員。
- 四、本規約第十条ニ関スル委員。

第二条 前条ノ諸委員ハ一月三日正午白玉山ノ北麓旅順街道上、市街ノ入口ニ集合シ其担任事項ニ着手スルモノトス。

第三条 旅順要塞内ニ在ル陸海軍々人ハ其ノ編成表受領ノ上、日本軍ノ指定ス順序ニ依リ、将校及ビ所属官吏ハ帶劍し、下士以下ハ一切武器ヲ携帯スルヲナク、一月五日午前九時、其最先頭ヲ以テ鴨湖嘴東湯ニ到着シ、本規約第八条ニ関スル委員ノ指示ヲ受クベシ。但シ将校以下一日分ノ糧食ヲ携帯スルヲ要ス。

第四条 陸海軍ニ属セザル露国官吏ハ各職分毎ニ一団トナリ、前条ニ示セン諸隊ニ続行スベシ。但シ該官吏中義勇兵ニ加ハリタルヲ無キ者ハ宣誓ヲ用ヒツシテ解放ス。

第五条 各堡壘砲台、諸建築物、諸倉庫、諸物件ノ所在地、及ビ艦船艇内ニハ受授ニ必要ナル将校下士卒、若シクハ之ニ相当スル人員ヲ残留スベシ。該人員ニハ日本軍ニ於テ調整シタル徽章ヲ佩用セシム。

第六条 陸海軍々人ハ義勇兵及官吏ヲシテ、一月四日午前九時以後ニ於テ、尚ホ兵器ヲ携帯シ又ハ指示セラレタル集合場ニ至ル事ヲ肯ゼザルモノハ、日本軍ニ於テ適宜處分スベシ。

第七条 本規約第七条ニ示ス、将校及ビ所属官吏ノ携行スベキ私有物件ハ、必要ノ場合之ヲ検査ス。其ノ量目ハ概ネ日本軍将校及ビ所属官吏ノ為メニ規定セラレタル行李ノ数量ニ準ズルモノトス。

第八条 旅順ニアル陸海軍用病院船ハ、日本軍ノ委員ニ於テ臨検シタル後チ、其定ム處ノ取扱法ニ從フベシ。

第九条 普通人民ハ各其堵ニ安ンズベシ。其退去セント欲スルモノ、總テ私有財産ヲ携行スルヲ保証（証）シ、陸海軍将校及ビ官吏ノ家族ニシテ退去セント欲スルモノハ、日本軍ニ於テ成シ得ル限り便宜ヲ與フベシ。

第十条 旅順要塞内ニ在住スル普通人民ニシテ、日本軍ニ於テ其退去ヲ必要ト認メシ者ハ、日本軍ノ指定スル時期及ビ通路ニ依リ退去セシム。

第十一条 本規約第十条ニ関スル露国委員ハ、行政並ニ會計ニ関スル既往及ビ現在ノ情況ヲ日本委員ニ告知シ、且ツ之ニ関スル一齊（切）ノ函書ヲ交付スベシ。

第十二条 旅順口ニアル日本軍ノ俘虜ハ、一月三日午後三時ニ於テ、本規約第九条ニ示ス日本軍委員ニ引渡スベシ。

此日會報ニ營口鞍山店附近へ敵兵ノ蹟ハレシ情報アリタリキ。

一月十四日

此ノ日朝起床セシハ午前八時三十分頃ナリキ。面洗ニ出デ遙ニ天模ヲ見渡セバ、一對(帶)ノ原野ハ深霜ノ為メサナガラ積雪ノセシ如ク白色ヲ呈シテ居タ。シテ満州ノ曠野一面ハ霧ニ鎖ザレ、冥濛トシテ咫尺ヲ辨スル能ハザル程デ、百米突位ヲ隔テタル先ニ在テ蠢メク動物ダニ視目スルハ出来ズ。此處彼處ニ薪木用トシテ伐採セシ残ノ植立セシ樹木、及ビ枯草ハ恰モ一目スレバ時ナラヌ花ヲ飾リシガ如クナレドモ、霜ト思ヘバ心ハ実ニ寒ムカラシム。時ニ吹き来ル凜風ハ肌ヲ破リテ身ヲ冷メタカラシム。午前午後ノ演習ニ出ズレバ霧ハ霰ノ如ク落ち、為メニ髪ハ色白ク変ズ。手袋ノ如キモ白色ノ花ヲ結ンダ様デ在タ。遂ニ此日ハ深霧晴ルハナク、夕陽稍々西方ニ傾クト同時ニ、寒風ハ北ヨリ起リ一層ノ冷激ヲ覺ユルニ至ラシム。実ニ満野ノ時候驚クノ外ナシ。此日ニ於ケル温度零下七度デ在タ。此日補充員トシテ分隊へ編成セラレタル元衛生隊ヲ組織セラレタルハ、中分隊ニ在リシ太田捨吉氏デ在ル。此ノ人ノ話ニ依ルト、後方即遼東守備軍ハ敵ニ不意ノ夜襲ヲ受ケ、第四十一聯後備第三中隊ノ如キハ全没トナリシ由。亦三ヶ所、鉄道ノ破壊モセラレ為メニ、一日間、汽車ノ通行モ阻絶セラレシ由。亦風説ニ依ルト營口ニテハ戦時一ヶ師団全員、二日間分位ナル糧食倉庫ヲ焼カレシヨシ。

本日第五師団參謀長ノ訓示ノ要左ノ如シ。

第五師団參謀長訓示ノ要 (口達)

今回旅順ノ陥落ニ就テハ已ニ軍司令官ヨリ訓示アリ。其ノ訓示ハ一兵卒ニ至ル迄知り居ル筈ナルガ、尚ホ今後ノ注意ノ為メ師団長ニ代リ一言ス。

現時ノ如ク戦闘後ノ經過長ク、加フルニ旅順陥落ノ如キ戦闘ニ一段落ヲ来シタルニ當リ、第三國ノ中(仲)裁ヲナスカ如キ感ヲ起シ、或ハ新聞紙上ニ如此事ヲ見ルニ當リ、將卒ノ志氣ヲ鎖(銷)沈スルヲアルベカラズ。現ニ此ノ第三國ノ中(仲)裁ノ説ノ如キハ遼陽戦闘後、既ニ之ヲ称ヘ居レリ。如此事ハ事實ニ於テ之レナシト思フ。何トナレバ我ガ軍ノ前面ニハ敵兵常ニ増加シツヽ在リ。而シテ旅順ノ陥落ハ黒鳩公^{クロバトギン}ノ軍ニハ關係セザル而已ナラズ、黒鳩公軍ハ行動上、純小ナレバナリ。尚ホ日本軍ハ已ニ精ヲ盡シテ来レリ。然ルニ露國ノ極東軍ハ其全隊ノ六七分ニ過ギズ。故ニ今ニ當リ中(仲)裁ヲ望ムガ如キハ敢テセズ。却テ是迄ノ恥辱ヲ恢復セントスハ必然ノ理ナリ。

故ニ如此永ク滞在シ、或ハ仲才(裁)説ノ如キコトヲ唱フルヲアルモ、決シテ志氣ヲ失スル如キ事ナク、志氣ノ拡張ヲ維持シ、益々奮勵シテ今後ノ戦闘ニ充分ノ好果ヲ収ムルヲ努メザル可カラズ。

十三日同上

敵ハ我ガ左翼ニ向ヒテ続々運動シ、師団ハ何時此方向ヘ向フヤモ知レズ。其積ニ覺悟

シアルベシ。

一月十五日

天気模様、昨日ニ霜ノ高キハ稍々等シト雖モ霧ハ遙ニ少ナク、午前十時頃ヨリ全ク天ニハ一点ノ雲モナク晴レ渡リ、為メニ稍々砲声モ激ナリキ。本日モ変リナク軍隊ノ意手向キナル、右向ケ前へ、左向ケ前へモ、廻レ右前へノ演習デ在タ。此中思へ（ヒ）出シタハ斯克命ヲ票ニト立テ、遠ク清国ニ来リ、今ヤ互寒ニ於テ此ノ満州ノ曠野ニ在テ、身ハ激風ニ破ラレ、其レハ軍人ノ本分ニテヨケレ共、頭カラ無理ト權利ヲ以テ抑ヘラレアラン——思ヒ思フ程、軍隊ノ規律ハイヅ（ヂ）ラシヤ。折角兵役三年ヲヨウーヨノコトニ終リテ安楽ノ身トナリ、自由自在ノ我身ノ權利ヲバ振フテ、互ニ苦樂ヲ共ニナス世ニ出デシト思へ、喜ビノ外亦此ノ度ノ日露ノ戦争ニ引キ出サレ、砲烟弾雨ノ下ヲクバルハヨケレ共、今日ノ如キアサマシキ境愚（遇）ニ陥ルトハ。ソレトモ我ガ誤チヲセシ其上デイツ（ヂ）メラルハ本意ナレドモト思フタラ、男涙ガ一適（滴）ホロホロト出タ。日ハ早クモ余ガ何ヤラカヤラ考フル内ニ、西ニ傾キ、時ハ今ゾ五時半ナリト自慢ラシク示シテ居タ。此時ナリ、来ル余ガ一友人幸ト一杯傾ケ、遂ニ此夜ハ去リニケリ。

一月十六日

午前八時ノ起居（床）ニハアイズモナケド、軍律ガ身ニ浸ミアレバ、唯ニ起シトモナクモ、軍律ハ戦地ト雖モ犯ス可カラザル。脳ニ三ケ年ノ教育ニテ徹シ在レバ、夢ハ覺マサレテ第一ノ面洗ニ出デ遙ノ四方ヲ眺ムレバ、^{カシ(ス)}霞ミガツ（チ）ナル満州ノ野ハ、今ハ霞ハ在ラネドモ、冬期ニ於ケル空気ハ満チシ為メ、一昨日ニ於ル如ク、霧高ク僅ニ離テ前方ニ動く者サヘ蠢ヤラ否ヤラハ、見分ケモ出来ザル程ナリキ。日ハ段々ト過ギテ、正午モ来リケレバ、天ハ朝ト変リテ、晴レ渡リ一点ノ雲モナキノ模様、実ニ我身ト等シキ空ヨナート思フ心地触（振）リニナツタ。太陽ハ赫々ト輝キシハ廣キ満州ノ野。午后ノ仕業ヲバ高粱稜ヲ掘り取ルニ相當ス（シ）在レバ露营地ノ北側ニ在ル烟ニ其（？）ヲ連レ出テ遠ク晴レタルマ、ニマカセテ、空高ク北方ヲ見渡セバ、考樹ハ此處彼處ニ立残り、霜ニ襲ハレテ苦痛ナラシム。我等ハ此ノ日寄りニ見ルト、実ニ春ノ花ノ三月トモ思ハレタ。既ニ午后ノ三時過ギト成リケリ。令（例）ニ依リテ簿記学ニハ集リテ、曹長始メ各分隊長ハソロウテ簿記ノ勉強ハ始マリシガ、教官ノ読マルハヲ写シ（ス）位ナ事ヲ一シヨニ写サレナイ。ソレデモ親公^む（不明）ノ区別モセデ面白言ヲ使フタノデアル。亦減ニサリ（レ）タガ、之ハ茲ヲ見ル度ニ詳細ハ思ヒ出ダサレルカラ茲ニ記サナイ。

本日ノ會報中ニ有田兵站參謀長ノ報告（本月十四日ノ報）。十三日ノ夜、敵ノ歩兵約二千五百、騎兵三四中隊、營口ヲ攻撃シ来レリ。午后八時頃、三回ノ突撃ヲ為シ来ルモ之ヲ撃退セリ。敵ノ遺棄セシ死体六拾、負傷六、亦土人ノ言ニ依レバ敵ノ全損害ハ約三百名。十

三日、此敵ハ連山屯大勾家子附近ニハイカイセリ。亦十四日午前八時頃、安東林附近ヲ敵ハ八発ノ砲撃セシモ我軍ニハ損害ナシ。津賀支隊ハ風寡屯附近ヲ攻撃シ、敵ノ損害約五百名。目下營口、牛莊、遼陽ハ平温（穩）トナレリ。

陸軍大臣ノ通牒。十二日午前十時ヲ以テ鴨綠鷗（江）軍司令部編成ヲ令セラル。十四日午前十時ニ攻城砲兵司令部ノ復員ヲ令セラル。十四日午前十時ニ獨立重砲兵隊ノ編成ヲ令セラル。

亦数日前ヨリ敵ハ大ニ我左翼ニ向テ運動セリト。亦十三日、太灣牛莊方向ニ向テカカ馬附近ヨリ南下セリト。

一月十七日

元氣晴天。抓樹子ニ在テ滞在。午前午後演習ヲセリ。前面ノ敵情ノ會報アリタリ。

一月十八日

元氣晴天。前日ニ同ジ。簿記学ヲ学ブ。

一月十九日

天氣曇天。

一月二十六日

天氣晴天。抓樹子ニ在テ滞在セシモ、此日ノ銃砲ハ実ニ猛烈謂ハン方ナシ。然レモ未ダ出發ノ命モナク、午前午後ノ演習モナシタリキ。此日特別加給トシテ酒一人ニ付、約二合、煙草十本ヲ給セラレ、午後五時三十分頃ヨリ酒盃ヲ掲ゲ、尚ホ酒保ヨリ買ヒ求メ来リテ、先ヅ沢山ノ酒モ傾ムル筈デ在タガ、六時ニ至リ、再ビ中隊ヨリ會報ニ集マレデ、之レ何事ナラント驚ヤ駈出シテ集リシガ、其ノ會報左ノ如シ。

一月二十五日午後三時、拾師団司令部ニ於テ。秋山支隊ハ昨廿五日約一旅団ノ敵ニ攻撃ヲ受ケ、其ノ前哨戦ヲ撤シテ本防禦線迄退却ス。波且堡黒溝台モ昨日午前ヨリ猛烈ナル砲撃ヲ受ケ、殊ニ黒溝台（種田支隊ノ騎兵第五聯隊ハ此地ニ在リ）ハ敵、諸兵連合ノ約一ケ師団ノ敵ノ包圍攻撃ヲ受ケ、日没ニ至ル迄頑強ニ抵抗セシモ、夜半ニ至リ遂ニ古城子ニ退却セリ。種田支隊ノ死傷約六十、馬匹三十、其他大ナラズ。

又、同日、敵ノ騎兵約十中隊砲八門ハ、北大勾付近ニ迫リ同地ノ我守備兵、攻撃中ナリ。長字堡右向ニ在リシ騎兵ハ、昨日戦鬪後、頭台子附近ニ退却セリ。而シテ同地ニ在テ搜索スル筈。本日敵ノ歩兵約一旅団砲二中隊ハ李大人屯ニ向ヒ、又、歩兵一旅団砲三中隊ハ波且堡ニ攻撃ス（シ）来リ、同地ノ我歩兵二大隊砲二中ノ隊ハ波且堡ニ向ケ赴援セリ。

第八師団ハ大新庄子（老東溝〔狼洞溝〕ノ東南約一里）、徐（除）家堡黒溝台附近ヲ攻撃スル筈。

第三師団ハ今明日中ニ撫家甸子附近ニ集合スル筈。

第五師団参謀長通牒。

満州軍通牒ニ依レバ露亜帝国ニハ内乱起リ、皇帝皇后ハ行衛不明。数万ノ暴徒ハ、セントピーターニ集中ス。アルセーセバストポールニハ火災起レリ。今夜満州軍司令部ヨリ各司令部ニ訓令アリタリ。右ニ付敵ハ此時極（局）ニ際シ攻撃ヲ取り来ルヤモ斗ラズ。故ニ何時出發スル様、注意ス（シ）アル可シ。

捕虜ノ言ニ依レバ敵ハ二十七日、全線ニ攻撃ス。其模様ニ依リ其ノ攻撃ヲ続行スルヤモ斗ラズ。

余ハ敵ノ攻撃ニ際シ全線ヲ極メテ静粛ニ保持スルヲ望ム。

フツローニ兵器ノ製造所在リテ、其ノ製造ハ一日ニ百六十万発ノ大キヲ製造セリ。為メニ職工ハ一万二千人、其ノ内ニハ各人ノ集中ナリ。之ガ本月十五六日以来、同盟罷工ヲ起セリ。其ノ長ハカンボジヤ鉄道ノ驛長頭梁トナリ居レリ。其レニ向ヒテヒトラヘキヲスマメルタ（タル）露兵射撃セシガ、当地ニテ勝ヲ得タルガ、同人等ニ大ニ露兵ガイクラ満州デ射撃ヲ為ストモ敗ケル筈ダ、ト罵リヲ受ケタリキ。

露、常ハサルツヤシキト云フ處ニ居ルデアロウト云フ噂。

モスコー、セバストポール附近ニモ暴徒起レリト。

今日午前中ニ於ケル会報ハ左ノ如シ。

午前十一時満州軍司令部ニ於テ敵ノ騎兵約一旅団ハカ力馬烏堡（邦）牛ニ在リテ、約一旅団ノ敵ハ今日（廿五日）朝黒溝台ト菲（菲）菜河子附近ニ於テ渾河ノ左岸ニ深出スルモノ（ノ）如シ。二、第八師団長ハ成ルベク大クノ兵ヲ以テ直チニ前進シ此敵ヲ攻撃ス可シ。第八師団ノ全部ト後備歩兵第八旅団在リ。三、國民後援會ヨリ寄送毛布亦送り来リシニ以テ約分隊ニ一枚宛ニ分配ス。

本日特別加給品トシテ精（清）酒約一人ニ付ニ合、煙草十本ヲ給ス。補充員ニシテ藁靴ヲ携帯セザル者ニハ本日藁靴ヲ支給ス。第五師団命令。一月廿六日午後十一時於十里河。

- 一、今夕刻ニ到リ第八師団ニ対スル敵ハ増加セルモノ、如シ。
- 二、敵ノ大縦隊ハ牛居沈窩ヲ經テ東方ニ行進スルモノ、如シ。
- 三、第九旅団（第十一聯隊及ビ騎兵ヲ除ク）ハ老（狼）洞溝ニ集合ス。各隊ハ左ノ順序ニ依テ集合セントス。小官堡萬金台ヲ經テ狼洞溝ニ急行ヲ以テ行運ナスベシ。

行運序列、騎兵小隊、師団司令部、歩兵第二十一聯隊、同四十一聯隊、同四十二聯隊、工兵及ビ衛生隊トス。

本日、前記ノ如ク愉快ニ酒宴ヲ催シ居タルガ、此夜ハ非常ニ心浮ヌ心地ハセシモ、先ヅ

酒宴モ終リ午後十時ニ至リ寢眠ニ付キタリシガ、時ハ段々ト過グルニ從ヒ夢ヲ結ビ心地能ク眠リ居タ處、フト夢ヲ覺サレテ居ル央ヘ外衛兵タリシ飯国清太郎ナル者、舎ニ販リテ曰ク。本夜師団ハ出發ノ模様ナリ、既ニ歩兵第四十二聯隊、砲兵隊ハ十時頃出發セリ。多分衛生隊モ出發ニ違ヒナス（シ）。今頃何時ナルヤト云フト、今、午後十一時半頃ナリキ。此話ヲ聞クヤ驚キテ早クモ余ハ起キ上リ先ヅ我ガ装具、私物等ヲ取り方付ケテ兵卒ニモ準備ヲ為サセルト、中隊当番ナルモノ駈出シテ分隊長ハ中隊ヘ集マレデ在タ。是レ出發ナラント思ヒツ、中隊ヘ集リシガ、果シテ早時出發ノ準備ナル命令ニテ、之レヨリ分隊ハ大混雜シテ、各々出發ノ準備ヲ為セリ。何分、突然ナリシ故大ニ混雜ス（シ）タリキ。然レ兼テ何時ニテモ出發ス（シ）得ル如ク準備ニ在ルベキ注意在リシ故、各自其ノ準備ハ為テ居ルヲ以テ比較的早く準備ヲ終リ、翌二十七日午前一時頃、久シク籠宿セシ抓樹子ヲバ出發シテ右翼ニ來襲セシ敵ノ攻撃ニ任シタリキ。

一月二十七日

本朝午前一時頃抓樹子ヲ出發スルヤ先ヅ十里河ニ出デシガ、昨夜出發ノ命令ヲ衛生隊ハ傳騎之ヲ取り落シタル為メ、衛生隊十里河ニ到着セシ中ハ、戦列隊ハ何レモ前進シタル後ナリキ。而シテ衛生隊ハ急行ヲ以テ前進セシガ、約二里或ハ三里モ前進セシ頃ト思フ（ボ）シキ頃ヨリ、歩兵隊ノ落伍者實ニ夥タバシキ、其ノ数ヲ不知。殆ド三里モ前進セシトキ東ノ空ハ稍明カルクナリシガ尚ホ前進スル途中、落伍者ノ多キハ實ニ心ヲ寒ムカラシムルノデ在ル。十里河出發以來、沸（拂）曉ニ至ル迄ノ落伍者ヲ想像スレバ、約二大隊余之大キニモ達スル程ナラント思ヒ、斯ク落伍者多キニ至ラバ當低（到底）、戦斗ヲ為スハ出来ザル程ナラント案事（ジ）ラレタノデ在ル。約四里以上ヲ六七貫目ノ背囊ヲ背負ヒ急行軍セシヲ以テ、我ガ衛生隊モ疲労セザル者ナク、加フルニ急行ノ為メ足ヲ痛メ言語ニ盡シ難キ苦痛ヲセシモ落伍者ハ二三在リシモ、一般ヨリ隙（察）スレバ無キト云フモ可ナル程ナリキ。茲ニ於テ十分間ノ内ニ朝食ヲ喫スベキ命令アリシモ、飯ヲ携帯スル者ハ更ニナク、亦飯ヲ携帯セシモ互リテ全ク食用ニハ適セズ。故ニ重焼パンヲ食シテ亦モ前進ヲ起セシガ、最早急行ノ為メ足ヲ痛メ殆ド歩行ハ出来ザルガ程ニテ、我同胞何レモ等シク、或ハチンパヲ引モ在リ、或ハ身ノ苦シキ為メ泣クモ在リ。此情ヤ實ニ憐レト云フテ可ナルヤ。何トテ比類ナシ。

此道中凍傷ニ罹リ遂ニ一命ヲ果タセシモ在リ。人事不精（省）トナリシモ在リ。此惨情（状）亦憐ナリ。而シテ其后、尚ホ前進シ愈々師団命令ノ集合地タル狼洞溝ニ到レ（リ）、茲ニ於テ亦重焼パンヲ昼食ニ代用シ約一時間休憩シ、以后大台ニ前進スベキ命令ニテ出發ヲ起ス。此時午後一時頃ナリキ。而シテ大台ニ向ヒ前進途中、小（東）甸子ニ達シタルハ歩兵第四十一聯隊、此ノ村落ヨリ散開ス。三躍進セシトキ（第一線）ハ殆ト大台ノ北端ニ前進シタルヤ。此日空ハ深霧ニ鎖サレ居タル。敵兵近キナラン。砲撃ヲ開始セリ。此時我

砲兵ハ太台ノ西南端ノ畑地ニテ砲撃シツ、在リ。我ガ衛生隊ハ大台ニ着セシキハ午後二時半頃ニシテ同時ニ假帯所開設ス。同三時頃ヨリ傷者ノ收容ニ任ゼシガ、此頃、彼我ノ砲撃、亦銃声実ニ猛烈ナリキ。此村端ニ在ル我ガ砲兵陣地ノ右翼ニ出デシキハ、歩兵ノ第一線ハ大台ヨリ約二千米突ノ前方ニ出ヅ。我ガ衛生隊、前砲兵陣地ノ右翼ニ出シキ敵ノ砲撃ヲ受ケシ、実ニ猛烈ニシテ、為メニ衛生隊第七分隊ノ兵卒三名負傷セリ。其レヨリ后寢食ヲ缺キ傷者收容ニ任ゼシガ、全ク收容ヲ終リタルハ翌廿八日午前四時頃ナリキ。傷者ノ数、千人ニ近カシ。我ガ軍ノ陣地ハ開カツ（豁）ナル畑ニシテ何一ツトシテ掩蔽物ナキモ、此ノ地ニ前進シ勇勢ナル敵ヲ猛戦奮闘遂ニ李家窩堡（棚）方向ニ撃退セリ。本日ノ師団命令。二十七日午後十時三十分、大台ニ於テ

- 一、敵ハ柳丈堡、李家窩堡（棚）ニ退却セリ。
- 二、秋山支隊ハ第八師団長ノ直轄ナルトナリ。
- 三、師団ハ明日先ヅ柳丈溝ヲ奪取セントス。第九旅団長ハ柳丈溝ニ向攻撃ス可シ。総予備大隊タル第三大隊ハ四十一聯隊ノ下ニ在テ指揮ヲ受ク。歩兵第四十一聯隊ハ現在ノ地ニ在テ第八師団ト連絡ヲ取ル可シ。砲兵隊ハ豫定ノ陣地ニ付キ衛生隊ハ大台ニ在リテ、小（東）甸子ニハ野戦病院在リ。

一月二十八日

本日天気晴天。拂曉ヨリ後送並ニ戦線ノ傷者ノ收容ニ任ズ。第二中隊半部ナル故多忙極ハマリナシ。此日午後十二時過迄傷者ヲ收容セシガ、此日ノ戦線ニ出ズル時ノ砲撃ヲ受ケシ、実ニ猛烈、然レ幸ニ衛生隊ニハ負傷者ナカリキ。第一線迄ハ開カツ（轄）ナル畑地、約四千五百米突ナリキ。此日午後一時頃、戦線ニ出デシ時ハ砲撃並ニ機関砲ヲ以テ射撃ヲ受ケタリキ。亦我死者ノ中、最モ不（悲）慘ノ情況ナルハ砲弾ニテ斃レシナリ。此者ハ或ル中ニハ胸部ヨリ上部ハ只ダ顔ノ一部ガ残り居ルノミニテ、皆散リ果テ内臓ノ出デシ者アリタリキ。

本日ノ師団命令ハ、午後九時、大台ニ於テ柳丈堡李家窩堡ニ在リシ敵ハ約一旅団ニシテ、狙撃歩兵第五旅団及ビ近衛歩兵ノ一部ニシテ、歩兵約八九大隊、砲兵ハ三四中隊在ルモノ、如シ。其他長灘西南方ニハ砲数不明ノ砲兵在リ。目下敵ハ尚ホ鴨子泡、馬狼徂（征）、菲（菲）菜河子ノ線ニ在リ。

新庄ニ在ル衛生隊一半部ハ到着セリ。第八師団ノ戦況ハ未ダ詳カナラズ。師団ハ現在ノ位置ヲ堡持セントス。歩兵第四十一聯隊、同第四十二聯隊ハ同地ニ在テ東方ノ敵ヲ監視ス可シ。

一月二十九日

本日ハ天気晴天ニシテ戦斗ハ稍々緩ニ為リシモ、衛生隊ノ作業ハ以（依）然トシテ繁多

ナリキ。本日ハ午前昼食携帯ニテ長（姚）坨子ニ前進ス。傷者収容ニ任ゼシモ傷者ハ戰鬥ノ緩ニナリシ為メ、僅ニ露兵ノ傷者四五名在リシノミナリシ故、午後一時頃ヨリ賑ル。其ノ途中、二十七日来ノ戦線タリシ處ノ装具ヲ集メ、午後四時半頃大台ニ賑リ、二十八日午後ヨリ野戦病院大台ニ開設ス。為ニ衛生隊ハ繙帶所ニ引揚ゲ直チニ此ノ病院ヘ収容ス。二十八日夜、四十一聯隊ノ前面ニ敵ハ夜襲シ来リ退却セリ。此時敵ノ死者二三百ヲ遺棄シテ退却セリト。本日ノ命令ハ左ノ如シ。

第五師團命令。一月廿九日、太台ニ於テ昨日黒溝台ニ在リシ敵ハ頑強ニ抵抗シ、第八師團ハ未ダ目的ヲ達スルヲ得ズ。二、後備歩兵第十旅團臨時衛生隊到着ス。余ノ指揮ニ属セラル。師團ハ今ヨリ菲（菲）菜河子、三大子附近ノ敵ヲ攻撃セントス。三、歩兵第四十一聯隊ハ現在ノ位置ヲ固守ス（シ）小樹子、鴨子泡方向ヨリ菲（菲）菜河子方向ニ向テスル敵ノ運動ヲ防（妨）害スルヲ努ムベシ。四、后備歩兵第十旅團長ハ歩兵第四十二聯隊（二中隊欠）、后備歩兵第二十聯隊（一中隊欠）、同歩兵、第四十聯隊ヲ率ヘ三大子ニ向ヒ敵ヲ攻撃スベシ。馬狼徂（征）及ビ黒溝方向ニ対シ特ニ警戒ス可シ。五、野戦砲兵第五聯隊（一中隊欠）、同第十七聯隊（一大隊欠）ハ菲（菲）菜河子及ビ長義（日）套、三大子ヲ砲撃シ師團ノ攻撃ヲ援助ス可シ。六、歩兵第四十二聯隊第一大隊（二中隊欠）、後備歩兵第十旅團（一中隊欠）ハ、大台ニ至リテ豫備隊トナル可シ。衛生隊野戦病院歩砲彈菜縦列（？）、並ニ臨時衛生隊ハ大台ニ位置スベシ。

二十九日午後二時師團命令於大台。

- 一、前面ノ敵ハ敗退セリニ監時立見軍ハ柳丈溝、菲（菲）菜河子、烟台子及ビ黄蠟（臘）坨子ヨリ以南ハ渾河左岸ニ沿フテ占領ス。敵ヲ搜索スルト同時ニ部隊ノ整頓ヲ行ハントス。
- 二、第八師團ハ黒溝台ヲ占領シ一部ヲ烟台子ニ出シ警戒スル筈。歩兵第九旅團司令部歩兵第十一聯隊、騎兵聯隊ハ爾今余ノ令下ニ復賑ス。師團ハ柳丈溝、菲（菲）菜河子間ヲ占領セントス。
- 三、歩兵第四十一聯隊ハ右翼隊トナリ、柳丈溝、長義（日）套、姚挖（坨）子ノ諸部落ニ宿営シ、柳丈溝、長義（日）套間ヲ堅固ニ占領スベシ。亦右翼沈且堡ニ於ケル豊部（邊）支隊ニ左翼歩兵第四十二聯隊ノ右翼ト確實ニ連結ス（シ）、抓家子周官堡方面ヲ搜索スベシ。
- 四、歩兵第四十二聯隊ハ左翼隊トナリ、鴨子泡、菲（菲）菜河子、馬狼徂（征）ノ諸部落ニ宿営ス（シ）、鴨子泡、菲（菲）菜河子ノ間ヲ堅固ニ占領スベシ。亦右翼歩兵第四十一聯隊ノ左翼ト左翼烟台子ニ在ル第八師團ノ一部ト確實ニ連結ス（シ）、長灘方向ヲ探索スベシ。
- 五、砲兵聯隊（一中隊欠）ハ三大子ニ宿営シ占領地域内ニ於テ抓家子、周官堡及ビ長灘方向ヲ射撃ス（シ）得ル如ク準備ハアルベシ。

六、衛生隊ハ業む（務）終レバ小（東）甸子ニ宿営スベシ。

廿九日午後九時師団命令。

敗退シタル敵ノ一部ハ尚ホ張庄子ヨリ王窩堡ニ渉ル線ニ在リ。師団ハ明日現在ノ位置ニ停止ス。

第一線諸隊ハ成シ得ル限り其ノ防禦工事ヲ堅固ニスベシ。

本日衛生隊ハ命ニ依リ業務終ルト午後六時頃、太台ヲ引上ゲ小（東）甸子ニ販リシガ第三野戦病院開設ノ為、僅ニ木造一棟ノ家屋アルノミニテ、中隊本部衛生隊本部ノミ宿営ス。残余ノ下士以下ハ悉ク露營セシガ、本夜ハ特ニ寒キ日ニシテ高粱ヲ以テ周囲ヲ覆ヒ其ノ中ニ在テ夢ヲ結バントセシモ、身体ハ寒風ニ徹シラレ、為ニ自分ノ身ニ非ラザル心地セリ。故ニ片時トシテ眠ルヲ得ズ。ノミナラズ実ニ泣ク斗リナリ。此時心ニ浮ビシハ此寒キ為ニ身ノ憐マシサヲ思ヘ（ヒ）出サレタガ、如何ニセンスベモナク、一層、一昨日来ノ敵弾ニ斃ルハガ勝ル心地ハセリ。夜ハ段々トフケ渉リ終夜火ヲ燃シテ居ルガ、霧ノ如キモノハサナガラ雪ノ降ルガ如ク身体ハ悉ク白クナレリ。遂ニ茲ニ於テ一夜ヲ明シタリキ。此夜余リノ寒サニ手ハ互ヘテ火ノ飛ビ来リシモ知ラズ。

一月三十日

昨夜ノ露營ノ夢ハ結ブ（ビ）モヤラデ遂ニ終夜居眠リモ亦ヤラズ、涙ヲ流シテ夜ハ明シテ本日ハ来リ。又、空ヲ見渡セバ霧ハ深厚ニシテ咫尺モ辨ズル不能ザル程ニテ、我ガ露營セシ傍ニ在リシ樹木ノ枝ハ、サモ霜ノ為メニ桜夜ノ葉開ルニ似タリ。此ノ如クナル故、昨夜ハ寒キハ当然ナリ。稍々在リテ燃火ノ為メニ身体ハ自己ノ身ノ心地ハセル様ニナレリ。シ（ス）ルト右并背ノ小指ノ處非常ニハシリ、コハ如何シタデ在ロート思ヘ（ヒ）、見レバ、赤クナリ居レリ。約一時間后フクレテ豆トナリ、大ニ痛ヲ覚ヘルニ至ル。之レ昨夜火ノ飛ビ来リテ焼シナルモ、互ヘシ為メ其ノ当時ハ知ズ。先ヅ朝食モ馬ノフンヤ高粱ノ混ジ在ル中デ終リシガ、中隊ヨリ狭キ家屋アル故、露營ノ分隊ハ各々此家ニ入ルベシト云フ事ニテ、各分隊長ト之ヲ見口ヲシテ各々午前十時半、奈屋内ニ入り稍々野ニ比シ温度ハ増シ、亦ヨクガ出デ先ヅ命ノ丈ヲ捨（拾）ヒタリ。一傾祝盃ヲ上ゲ様ト一杓傾ケタ。此ノ日ハ前方ノ砲声銃声ハ絶ヘザリキ。殊ニ夕刻ハ猛激ナリキ。

一月三十一日

小甸子ニ在テ滞在。此日特別加給品トシテ、精（清）酒一人ニ付約二合ヲ分配セラル。此日前方ニ於ケル砲声ハ激烈ニシテ、夕刻ニ至リテ一層激烈トナリ、銃声亦実ニ天地モ崩レン斗リデ在タ。午後八時頃迄酒盃ヲ揚ゲ、余ハ未ダ夕食ヲ終ラザルニ中隊ヘ駈歩テ、分隊長集マレデ行キテ見ルト早時出発ノ命、直チニ販リ此ノ命ヲ傳ヘ、余ハ夕食モ喫セズ其ノ儘中隊本部前ニ集合ス（シ）情報ヲ達セラル。歩兵第四十一聯隊ハ本日夕刻ヨリ敵ノ歩

兵約二大隊、砲二十門ヲ有スル優勢ナル敵ノ攻撃ヲ受ケ、為メニ負傷者ハ屢々出来ル模様ナリ。依テ衛生隊ハ此ノ傷者収容ニ任ズ。終リテ直チニ前進ス。李家窩堡ニ至リ繃帶所開設、直チニ第一線ニ出シガ、此夜、太台ノ村端ニ出シトキヨリ彼我ノ銃声実ニ猛烈ニシテ、長義（日）套ニ在ル第一線ニ出デシトキハ、小銃弾ノ飛来恰モ降雨ノ烈シキヨリモ勝レリ。翌二月一日午前四時ニ至リテ第一線ヨリ李家窩堡ニ皈ル。

二月一日

天気晴天。第一線ハ午前中、銃声ハ絶ヘズ、午前十一時半頃ヨリ我軍、砲兵砲撃ヲ開始ス。敵ハ多大ノ損害ヲ受ケテ銃声モ此時ヨリ稍々緩ニナリ、衛生隊ハ午後五時迄作業ヲ為ス。同時ヨリ十担架ヲ残シテ爾余ハ小甸子ニ皈リ宿營ス。

二月二日

天気晴天。小（東）甸子ニ在テ滞在。前方ニ於ケル彼我砲撃ハ実ニ猛烈ナリキ。本日午前十時整列シテ黒溝台附近ノ戦斗ニ於ケル勅語奉讀式ヲ行ハル。二月一日午前零時五十分電報受。

第八師團長 第五師團長宛

本日左ノ勅語ヲ賜ハリタリ。謹デ傳達ス。満州軍ハ其ノ左翼ニ来襲セス（シ）優勢ナル敵ヲ迎、勇猛果敢之ヲ渾河右岸ニ撃退シ、其企圖ヲ挫折シ多大ノ損害ヲ與ヘタリ。朕深ク之レニ従事セシ将卒ノ労苦ヲ察シ其功績ヲ嘉ス。

皇后陛下ヨリノ令旨。

満州軍ハ左翼ニ来襲セス（シ）敵ノ鋭鋒ヲ挫折シ之ヲ渾河右岸ニ撃攘シタル旨、皇后陛下ノ懿（勅）聞ニ達ス（シ）、我ガ將校下士卒ノ忠勇、能ク偉功ヲ奏シタルヲ深ク感賞アラセラル。

大山司令官ノ奉答

我ガ満州軍ハ左翼ヲ繞回シ猛烈ニ攻撃シ来ル優勢ノ敵ヲ迎へ沍寒凜然ノ際、数昼夜連続奮戦、敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘタルハ一ハ陛下ノ威凌ニ依ル。然ルニ參與軍隊ニ対シ優渥ナル勅語ヲ賜ハリ、臣及ビ參與軍隊ノ深ク感激ニ堪ヘザル処ナリ。後来益々奮励誓テ聖旨ニ酬インコトヲ期ス。右奉答ス。 一月三十一日

二月三日

天気晴天、小（東）甸子ニ在テ滞在。第一線ニ於ケル砲声ハ稍々烈シカリキ。余ガ宿舍ハ野戦病院付ノ輜卒ノ宿舍ヲ三分一借リテ入りシヲ以テ狭ク、夜ル寢眠ニ付クトキハ重リ合フテ眠（寢）廻リモ不出来!! 着ノミ着ノマ、防寒外套一枚ヲ夜具トシテ伏シ居タガ、何分寒サノ事故、眠リモヤラレデ只外套ヲ冠リ獨リ思フ。心ニ浮ブハ乞食ヨリモ尚ホ劣レリ

ト。十数日余モ身体被服ヲモ洗フコナク、汚レタル真黒ニ為リシ被服ヲ身ニマトイ、全身ハアカ（垢）ニテ塗ラレ、見ルモイヤナルチャンノ家ニハ宿リ、シラミ飼トナリシトハ、之レ我ガ愛婦ガ見タナラバ如何ニナゲクデ在ロー。マア一我が身程ツマラス者ハナイ。同ジ辰年ニ生レシ人モ数在ル中ニ、我レノミ此ノ如キ境隅（遇）ニ陥リシトハト思ヘバ、ネラレモセデ胸ニ関ウク（咳キ上グ）涙ナリ。亦思ヘ（ヒ）直シテ、イヤ々々ソウデナイ、今ハ我ガ身ハ我身ニ非ズ、生ハ国君ニ捧（捧）ゲテ一^レ大国事ノ盛衰ニ関スル重大ノ責任ハ身ニ満チ々々テ在リ。此ノ如キコヲ思フテハ君ニ不忠、親ニ不幸ト我レデ己ヲ制ス。胸ヲ関（咳）ク涙モ少々晴レルト一^レ発ノ砲声ハ障子モ破レヨカシト斗リニ空ヲ震ハセ地ニ響キテ、家ヲモフルハセタ。此一声デフト夢ハ覚メテ、頭ヲ上ゲ見レバ障子ヲモレテ太陽ノ光線ハ早ヤ夜ガ明ケタト云ハン斗リニ余ガ宿リシ宿舎内ヲ明ルクシテ居タノデ在ル。

二月四日

朝ハ一^レ発ノ砲声ニ眠ヲ覚マサレテ早クモ起テ室外ニ出デ見レバ、先ヅ耳ニ入ル聞キ（ク）モ珍ラシカラヌ砲声ハ頻リト烈キ故、前方ヲ眺ムルト数里ニ渉ル其ノ間ハ、露助メガ砲撃ヲ為シテ、其ノ爆発弾ノ煙リハサナガラ黒烟ノ如シ。此日ハ終日敵ノ砲撃ハ烈シカリキ。本日特別加給品トシテ精（清）酒一人ニ付約一合、煙草二十本デ在タ。夕陽全ク没シタルト同時ニ砲声少々絶ヘテ、時々身ニ浸（染）ミ渉ル砲弾ノ飛来セル音ノミ。既ニ午后七時半頃ト思フ頃ヨリ全砲声ハ休ミシガ、夜半ニ至リ、亦、敵ハ砲撃ヲ開始シ其ノ暴発セル音ハ身に浸（染）ミタリキ。

二月五日

本日ハ意外ノ寒風烈シク午前十時整列ノ命ハ中隊ヨリ来リ、同時整列セシニ耳モ鼻モ切レ飛バン斗リデ在タ。本日ハ何ニ事ナラント思ヘバ、両陛下ニハ非常ナル御震（宸）襟アラセラレ、殊ニ出征軍ガ此ノ満野ニ在リシヲ御シン（宸）襟サレ、為メ持（侍）從武官ヲ派遣シ満州ニ在ル出征軍人ノ情態、並ニ如何ニシテ暮シ居ルカヲ視察シテ販レトノ命ニテ、持（侍）從武官第一線其他ノ諸隊巡視サレ、両陛下ノ大御心ヲ達セラレタルヲ中隊長ヨリ中隊壹同ヘ達セラル。本日ハ夕刻僅ニ砲声ノセズノミニテイト穩ナ日デ在タ。

二月六日

天氣ハ極メテ晴朗。第一線モ午前中ハ実ニ穩デ在タ。午前十時中隊ヘ會報ニ集リシガ左ノ情報在リタリ。

五日ノ情報。第五師団ノ前面、本日午前九時敵ノ歩兵約式大隊長灘ヨリケツボウ子ニ向ヒ前進セリ。同地南方ノ森林ニ停止セルモノ、如シ。其后ハ運動ノ模様ナス（シ）。王家窩棚附近ニハ以前（依然）工事ヲ施シツ、在リ。

二、立見軍ノ前面、四日午後敵ノ騎兵一聯隊（砲約六門）二太子（三台子）附近ニ在リテ、七太子（台子）及ビ牛居附近ヲ射撃セリ。此敵ハ第貳師團ノ警戒面、左半部ヨリ頻リニ侵入ヲ試ミタルモ果サズシテ、三太子（三台子）附近ニ停止ス（シ）アルモノ、如シ。其后此敵ニ付テハ情報ヲ得ズ。其外各方面ハ静肅ニシテ敵ハ王家窩棚、長灘年魚堡（鮎魚泡）、張家堡、後媽虎岑子（後馮猯嶺子）及ビエダ北方高地ノ線ニ涉リ工事ヲ為ス（シ）ツ、在リ。尚在門馬間（圈）子ニハ稍々優（有）カナル騎兵在リ。

第五師團ノ前面ヲ算スルニ二十八日ヨリ三十日迄敵ノ死体百五十一、三十一日ヨリ貳日迄百六十二。日ノ日ノ敵ノ死傷ハ約八百、捕虜五十六。第八師團正面ニ於テ收容シタル敵ノ死体九百ヲ超へ、其外散在セシ者ノ二三百在リシ。銃ハ約千五百挺在リタリ。二月一日付ヲ以テ河村少尉、中尉ニ任ゼラル。第八師團長ハ第五師ヘ左ノ感状ヲ附與セラル。（感状写）

第五師團（騎兵聯隊欠）

明治卅八年一月二十八日柳条口ノ敵ニ向ヒ歩砲火ノ集射ヲ冒シ、快速ナル攻撃前進ヲナシ以テ敵ノ機先ヲ制シ、我レニ倍スル敵ヲ擊攘シタルハ勇敢敏捷ノ動作ニシテ為メニ軍ノ右側沈且（旦）堡ノ守備ヲ確保スルニ至ラシメ、村山支隊ハ遠ク我ガ軍ノ左側ヲシテ優勢ナル歩騎兵ヲ擊攘シ、軍ノ動作ヲ容易ナラシメタルハ其功績偉大ナリ。仍チ感状ヲ附與ス。明治三十八年二月三日。第八師團長男爵立見尚文。

感状写。騎兵第五聯隊（四小隊欠）。明治三十八年一月廿五日、黒溝台ニ於テ敵ノ包圍ヲ支（受）ケ戰鬥ノ後、同廿六日ヨリ廿七日ニ亙リ、北蛇（坨）子及三先泡附近ニ位置シ、優勢ナル歩騎砲兵ニ対シ巧ニ我側背ヲ援護シ敵ノ前進ヲ遅緩セシメ、以テ軍ノ計画ヲ容易ナラシメ、且ツ此方向ノ敵ノ動作ニ付キ適切ナル報告ヲ得、軍ノ行動ヲ助成シタルハ其ノ功績偉大ナリ。依テ感状ヲ附與ス。明治卅八年二月三日 第八師團長男爵立見尚文。

午後二時半中隊ヘ集マレデ集タガ、手紙ニ禁ゼラレタルヲ未ダ兵卒ナル者昏キ故ニ、本日ノ手紙ハ一應分隊長ニテ取り調べノ上指出スベシ。尚ホ今后一層嚴密ニ分隊長ニテ取り調べノヲ、絶（終）リテ舎ニ販リ手紙ヲ一人調べル処ヘ輻重、下士、舎ノ狭キ件ニ付キ来リテ余ニ交渉セリ。之ト協話シテ終ルヤ午後四時頃ニテ在リシガ、第一線ヘ敵ハ猛烈ナル砲撃ヲ開始セシ。砲声ハ余ノ舎ニ轟キ亙ル。此砲声ハ夕陽全ク没スルト同時ニ止ミイト静ナ夜トハナリス。

本日眞田上等兵ニ面會ス。

二月七日

天気晴天ニシテ前方モ穩ヤカナリキ。午前十時四十五分會報在リタリ。左ノ如シ。前面ノ情報。六日午前九時敵ノ歩兵約貳中隊、長灘ヨリ其ノ西南方森林（月堡子）ニ来リ工事

ヲ為ス。午後長灘ニ販レリ。工事線ノ前方ニ監視兵在リ。王家窩棚ノ附近、敵ノ工事人員ハ昨日ニ比シ減少セリ。午後三時、三犬子ノ我ガ砲兵ハ試験射撃ヲ開始ス。同十分、敵ノ砲兵モ亦長義（日）套ニ向テ射撃ヲ開始セリ。

通牒論（倫）ドン（敦）電報。

二月四日午後三時発。戦地ノ信ズベキ報ニ依レバ、二十五日ヨリ二十八日迄ノ露軍ノ死傷ハ一万ニ達セリト。同二月三日午後四時四十五分発。露都ノ報ニ依レバ全線ニ沿フテ激烈ナル戦斗ヲ開始ス。露軍ハ各地ニ於テ撃追セラレタリ。

黒鳩公ハ無役（益）ニ一万余ノ死傷ヲ出シタルニ付、クリッペンベリルグヲ噴（噴）責セリ。パルチク（波羅的）艦隊ハ同盟罷工ノ為メ出発ヲ延期セリ。ロシインシキーハ進航ヲ続行シ、パトロフシキー艦隊ト連合セリ。黒鳩公ハ目下危険ノ位置ニ迫レリ。容易ナラザル同盟罷工ハス（シ）ベリヤ鉄道沿線ニ起レリ。亦、グランシフヤルグニ於テ四百ノ同盟罷工者ハ橋梁ヲ破壊セリ。イルクーツクニ於テ戒嚴令ヲ布ケリ。之ガ為メ黒鳩公ニ援兵及ビ料食ノ輪（輪）送ハ危険ニ陥レリ。林公使ノ通牒。二月三日午前十時三十分発。

ノーウレミヤ新聞在奉天通信員報ジテ曰ク。ミツインコ將軍並ニ三千五百ノ負傷者ハ奉天ヲ通過セリ。

我ガ衛生隊第十担架ヅ、戦線ノ傷者收容ノ為メ李家窩棚ニ出デ居タリ。此ノ交代ノ番本日來リ、我ガ分隊ハ四担架、午前十一時五十分整列ス（シ）、此ノ任ニ服セリ。余ハ本日出ムカズ。中川龍造病氣ニ付残ル。土井平吉郵便局行トシテ残ル。

二月八日

天気晴天。第一線ニ於ケル銃砲声共、稍穏ナリキ。午前十時三十分、會報ニ曰ク。敵情ハ並ニ手紙ヲ出ス時限ヲ遅レザル件、本日ハ前方（第一線）ヘ傷者收容ニ在ルベキ任ニ余ハ相当セルヲ以テ、土居平吉一名ヲ我ガ分隊ヨリ率ユ。他ハ第五第六分隊ヨリ出務セシヲ率ユ。午前十一時四十五分整列。零時、小（東）甸子出発。柳家窩棚ニ前進セリ。此村落ニ在テ第一線ノ傷者收容ニ任ズベキ位置ナレバ、昨七日ヨリ出務セシ者此處ニ在リ。此處ニ着セシハ午後一時三十分、其レヨリ申送りヲ受ケ正二時ニ至ルヨリ第一線ノ傷者收容ニ任ゼリ。此日モ敵ハ僅ニ第一線ノ壕外ヲ歩行セル我兵ヲ狙撃スルノミニテ傷者ハナカリケリ。午後五時頃ニ至リシト思フ頃、我ガ輜卒第一線諸隊ヘ糧食ノ運搬ニ出デシヲ敵ノ目ニ觸レシナラン、砲撃ヲ五六発試ミタリ。此ノ敵砲弾ハ我ガ衛生隊ノ居ル家屋ノ附近ニ飛來ス。暴発セシモ幸ニシテ我ガ衛生隊ハ傷者ノ一人モ不出来、而シテ該記ノ如ク後方ヨリ我ガ第一線ニ往復スル者ヲ敵ノ歩兵狙撃スルガ程ニ近接ス（シ）アレバ、為メニ歩兵第四十二聯隊第一第二大隊ノ守備線ニ出ズ時ハ我ガ衛生ヲ常ニ狙撃セリ。之レ亦幸ニ終日間數回ノ往復ヲセス（シ）モ我ガ衛生隊ハ負傷者ナカリケリ。故ニ第一線ニ出ズレバ敵ノ作業ヲ

為セス（シ）ハ肉眼ヲ以テ能ク見ルヲ得。午後六時ニ至リ歩兵第四十一聯隊ノ第二大隊ニ一名ノ輕傷者ヲ出ス。之ヲ收容シテ第三野戦病院へ後送ス。其后日ハ全ク没スル。同時ニ銃声ハ止メリ。然ドモ常ニ一担架宛ハ假帯所迄出ス置ヲ連絡ヲ取レリ。夜ハフケ沍（亘）リ、既ニ午後十時頃ヨリ右翼ニ当テ、時々砲撃ヲ為ス音ハ地ニヒベ（ビ）キ聞ヘタルモ、敵ナルヤ味方ナルヤ弁ズル不能。時ハ過ギテ翌午前二時ニ至リ土居平吉歩哨交代ス。第十一聯ノ歩哨ト連絡ヲ為ス。同歩哨ノ言ニ依レバ、第十一聯隊ノ第五中隊ハ警急集合ヲナス（シ）タルヲ聞キ、余ニ其ノ報ヲナセリ。其后三十分毎ニ連絡ヲ取ラシムルニ、砲兵隊ハ左翼ニ優勢ナル敵兵増加セシヲ以テ、之レガ應援ニ行ク為メ第一線砲戦砲列陣ヲ引キ揚ゲシ由、然レドモ此夜ハ我ガ出ス前面ハ意外穩ナリキ。此日終日敵ハ常ニ狙撃セシモ我ガ歩兵ハ一発ダニ射撃セズ。亦此夜歩兵第四十一聯隊ノ前面へ敵ノ騎兵一中隊夜襲シ来ルモ撃退セリト。

二月九日

天氣極メテ晴朗。本日ハ敵ノ砲撃ヲ為スヤト案事居タルモ更ニ我前面ハ砲撃ヲセズ。右翼ト左翼ニ於テ午前九時頃ヨリ砲撃ヲナセリ。午後一時三十分、第四十一聯隊第三大隊ヨリ一名負傷者ヲ出ス。之ヲ第三野戦病院へ返送ス（シ）居タルト交代来リテ任ヲ終ヘ小（東）甸子ニ飯宿セリ。二十六日以来、外套一枚ニテ宿営セズ。為メ寒防（感冒）者多カリキ。本日午後四時半頃ヨリ前方ニ砲撃ノ音烈シクナリ終夜砲撃ヲナセリ。

二月十日

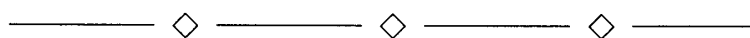
天氣晴天ナレ共、昨日来拂曉迄ノ寒キヲハ実ニ形容ニモ顕スヲハ不出来。昨日第一線ヲ第二十一旅団ノ守備トナシ、第一中隊ナル衛生隊其ノ旅団ニ付キ、我第二中隊ハ第九旅団附トナリテ后方ニ下リタリ。本日會報ノ際、中隊長余ニ曰ク。昨日風呂ヲ借りタル為メ、湯ヲ大燒場ニ洩ラセシヲ非常ニ怒（怒）リテ、分隊へ之ヲ直セト云フタ。此時之ヲ聞クヤ余ハ慘キ罪ヲ付ケラレタル心地セリ。付テハ舎ニ戻レバ淨ビテ軍隊ハ益々イヤトナレリ。何中隊長ガ左程無理ヲ云ハズトモ可ナルト思ヘリ。

午前十一時頃ヨリ我ガ前面ニテハ猛烈ナル砲撃ヲ開始セリ。此日夕陽全ク没シ（ス）ル迄ハ絶ヘズ緩徐ナル砲声ハ轟キヌ。

二月十一日

扱テ抓樹子ニ於テ砂河會戦以來実ニ二ケ月有余ノ長日月滞在ス。為メ意外ノ盛大ナル戦捷国ノ三十八年ノ新歳ハ迎へ、其之ヲ祝スル為メニ與擧（興）トシテ或ルハ芝居、或ハ劍舞、或ハ宇可利節、亦式モ在リ。中隊本部各部隊ニ於テ、イト盛大ナル祝盃ハ揚ゲテ極メテ愉快ハ清国盛京省奉天縣抓樹子ニ於テ為ス。其後前方モ平穩ニ服（復）ス（シ）居リ。

出発モナク日ハ空シク暮シ居ルヲ拾有餘日ナリシガ、茲ニ於テ敵ハ増々我ガ左翼ニ運動セリ。情報ハ日ニ頻繁トナリシモ未ダ出発ノ命モナク、為メニ我ガ衛生隊第二中隊ハ亦々紀元節ノ與擧（興）トシテ芝居ノ豫定ヲ為ス。従者ニ當撰（選）セラレシ者ハ今マ頻リト狂言ノ復習ヲ為スモ有リタリキ。然ルニ日ハ過ギテ一月二十五日トモ至ルヤ、敵ハ我ガ左翼ニ優勢ナル兵力ヲ揚ゲテ攻撃ヲ為ス（シ）来リ、依テ我ガ騎兵旅団一守備線ヲ退却ノ止ヲ得ザルニ至リ、為メニ我ガ左翼ハ増シテ危険トナリ（シ）時、第八師団ハ此ノ来襲セシ敵ヲ撃追スベキ任ニ當リ、廿五日ヨリ我ガ左翼黒溝台附近ニ於テ一大會戦ハ開始セラル。以来敵ハ益々増加シ、廿六日ニ至リテ第八師団ハ敵ノ包圍ヲ受ケテ危険ノ境ニ陥リシヲ以テ、我ガ第五師団ハ廿六日午後六、七時頃之ガ應援之任ニ當リ、突然二十七日午前十時頃ヨリ翌廿七日午前二時頃迄ニ、各隊ハ久日宿營セシ部落ハ出発ス（シ）其ノ任ニ服ス。又我ガ衛生隊モ遂ニ出発ノ命ヲ受ケ、兼テ予定ノ紀元節ニ饌挙ヲナス予定モ此ニ至リテ切ナキニ至レリ。其后、黒溝台附近ノ大激戦ニハ雪中数昼夜参加ス。彼我ノ損害実ニ多大ニシテ我レモ一命ハアヤラ（フ）カリキ。然ルニ天佑ニヤ、此ノ数昼夜ノ激戦中、頻々トシテ飛来セル銃砲弾ハ降雪雨ニ勝グル如ク昌ニシテ敵ノ一弾ヲモ蒙ラズ。其后敵ヲシテ多大ノ損害ヲ與ヘテ撃攘ス（シ）、目的地ヲ占領シタレバ此處ニ壕ヲ築キテ対陣ス。以来日ヲ募ルニ従ヒ戰鬥ハ止ミ、我ガ衛生隊ハ后方ナル小（東）甸子ニ在リト雖モ第一線ニ於テハ日毎ニ銃砲声ノ絶ユルナク、斯ク時々敵ハ我ガ守備線タル第一線へ夜襲ヲ試ミシモ、大和勇士ノ警戒ヲ破ル不能。然ル内ニ日ハ過ギテ二月十一日ノ目出度紀元節ハ茲ニ迎ヘタリ。此日陛下ヨリ紀元節酒肴料トシテ満州軍へ十万円ヲ下賜セラレ、我等ト軍經理部ヨリ之ヲ分配セラレシガ、准士官以上ハ十五斗、下士以下ハ十斗ツヽヲ下賜セラル。亦紀元節用トシテ隊ヨリハ精（清）酒各人ニ付壹合、菓子三十匁、生魚三十五匁、煙草二十本ヲ給セラレテ、茲ニ於テ愉快ニ紀元節ノ祝盃ヲ揚ゲ、敵ハ此時、緩徐ノ砲撃ヲ為ス。此砲声ハ亦我レ等ニ於テハ祝砲ヲ露助ガ撃テクレト思ヘバ亦一層ノ快樂。僅ニ一合ノ酒モ数量ノ酒盃ヲ揚ゲシ心地セリ。我ガ同胞ハ無事ニテ此ノ紀元節ハ迎ヘテ祝盃ヲ揚ゲシガ、フト心ニ憐ノ念起リシハ、廿七日以来ノ戰鬥ニ於テ戦死セシ大和勇士ナリ。国家ノ為メ一命ヲサヽゲテ戰鬥ニ参加シ、遂ニ戰場に斃レテ其ノ英靈ハ荒野原ナル満州ノ野ニ僅ニ木札ヲ植ヘラレテ凜風ニ晒サレテ、イト淋ソーニ見ヘルノデ在ル。中ニハ戦友ガ備ヘシ物ナラン、或ハ香花亦ハ菓子、実ニ之レヲ思ヘ（ヒ）出セバ、此ノ人ニ対シテハ悲シマザル者ナシ。余ハ幸ニ無異紀元節ヲ迎ヘタリキ。



『陣中日誌』は僅か二カ月間の日露戦争の記録であるが、一兵士の見た戦争の記録としていくつかの点で注目すべきものがある。

第一に勅語をはじめ、軍情報、訓示、通達の類がその都度、書き留められていて、戦況の推移が的確に分かり、自己の位置が明確に捉えられていることである。その点では日本軍の命令系統が十分に機能していたことが分かる。

次に足立栄之助は衛生隊に所属していたため、実際の戦闘行為に加わることはなかったが、弾雨をくぐり、負傷者を運び出し、仮帯所（繃帯所）に収容し、野戦病院へ後送するという重要な任務があり、その立場から戦争が語られている。たゞ、自軍の位置関係からか、前半ではそれ程の活躍の場はなかったが、1月27日以降（黒溝台会戦）は生々しい死傷者の描写が出てきて、戦争そのものがリアルに捉えられている。

第三としては兵士の宿舎での生活が生き生きと書かれていることである。日記はいきなり酒盛りのシーンから始まるが、極寒の地ということもあり、又、戦闘の緊張感からの解放ということからも酒は不可欠であった。酒保から、あるいは加給品として酒と煙草はふんだんに支給された。酒宴がくり返し持たれることに驚かされるが、酒の蓄えだけは充分にあったようだ。もう一つの娯楽は芝居見物で、外題からみて（1月2日、3日）日本本土から役者たちが渡っているようだ。日清戦争時の鷗外の『徂征日記』では中国の劇団員たちの演ずる芝居を見ている。

そして注目すべきは足立栄之助の肉声が聞こえる部分である。

寒さに眠れず涙し、凍る早朝、重い背囊を背負い急行軍をさせられ、兵士がバタバタと倒れて行く無惨な情景が描写されている（1月27日）。寒さとの闘い、みじめな宿舎、十数日も洗わぬ被服、これらを含めて「乞食ヨリモ尚ホ劣レリ」「愛婦ガ見タナラバ如何ニナゲクデ在ロー」（2月3日）と率直に書き留めている。他に妻を夢みるシーン（12月29日）や、故郷を思うシーン（12月24日、1月3日）、又、少し病弱であったのであろうか、体調の不調を訴える所など、きわめて人間的な兵士の一面がよく書かれている。

そして最も注目すべきは軍隊そのものへの批判とも思われることが書かれていることである。「マア軍隊ト云フ者ハ実ニ五月蠅」（1月7日）「思ヒ思フ程、軍隊ノ規律ハイヅ(ヂ)ラシヤ」（1月15日。「イヂラシー」とは方言で意地悪い、煩わしいの意。）「軍隊ハ益々イヤトナレリ」（2月10日）と、率直にその気持ちが書きとめられている。はっきり言って反軍思想に近い考えで見つかれば処分ものであろうが、日露戦争時は未だそれ程、徹底して思想統制が取られていなかったのであろうか。あるいは軍曹という階級が幸いしたのであろうか。

最後に紀元節を迎えたところで日記は終わっているが、そこに戦場で斃れた勇士の木札の墓標が印象深く書かれている（1月11日の条にも同じ描写がある）。国家に一命を捧げた者の姿が戦争そのものの何たるかを雄弁に物語っている。ここで思い出されるのは太平洋戦争中、フィリピン島バギオで戦死した竹内浩三の詩「骨のうたう」の一節である。

戦死やあわれ
兵隊の死ぬるや あわれ
遠い他国で ひょんと死ぬるや
だまって だれもないところで
ひょんと死ぬるや
ふるさとの風や
こいびとの眼や
ひょんと消ゆるや
国のため
大君のため
死んでしまうや
その心や

(竹内浩三 小林^{さよる} 編 『戦死やあわれ』 2003. 1 岩波現代文庫)